元総社蒼海遺跡群（135）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２０２０．３

前橋市教育委員会

元総社蒼海遺跡群（135）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２０２０．３

前橋市教育委員会

元総社蒼海遺跡群（135）遠景　（南から）

Ｗ－１号溝跡断面　（南西から）

Ｗ－２号溝跡断面（東から）

Ｗ－３号溝跡断面（東から）

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる群馬県の県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、２万年前から人々が生活を始め、市内のいたる所にその息吹を感ぜられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国府、国分僧寺、国分尼寺など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地となり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群（135）は古代上野国の中枢地域の調査であり、上野国府推定地域にも近接することから、調査成果に多くの注目を集めております。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出、確認はかないませんでしたが、国府衰退後、中世のこの地に栄えた蒼海城の堀跡等が検出されました。蒼海城は、県内最古級の城と考えられており、その縄張りは近年の発掘調査に伴って、徐々にその姿を見せていますが、全貌は未だ確認されていません。残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進められることができました。また、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

令和２年３月

前橋市教育委員会
教育長　　塩　﨑　政　江

例　　言

1　本報告書は前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（135）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　発掘調査の要項は次の通りである。

遺跡名	元総社蒼海遺跡群（135）
調査場所	前橋市元総社町 2149-1、2149-2、2149-5、2149-7
遺跡コード	１Ａ 244
監理指導	並木史一（前橋市教育委員会）
発掘・整理担当者	山田誠司（技研コンサル株式会社）
発掘調査期間	令和元年９月５日～令和元年９月 24 日
整理・報告書作成期間	令和元年９月 25 日～令和２年３月 10 日

3　本書の編集は山田が行い、原稿執筆はＩを並木、他を山田が担当した。

5　発掘調査および整理作業参加者は次の通りである。

大川明子　茂木佑輔（技研コンサル株式会社）

新井　實　上沢公一　宇賀神光　小田切幹緒　河本ちさと　北爪二郎　桑原　清　曽根良美　高橋一巳

中嶋知恵子　星野　博　細野竹美　吉浦英和

6　本書における図面・写真・遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管している。

7　下記の機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。

山下工業株式会社

凡　　例

1　挿図中に使用した北は座標北である。

2　挿図に国土地理院発行 1/200,000『宇都宮』『長野』、1/25,000『前橋』、前橋市発行 1/2,500 都市計画図を使用した。

3　遺構名称は、溝跡：W、井戸：Ｉ、ピット：Ｐである。

4　遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次の通りである。その他各図スケールを参照されたい。

遺構　溝跡・井戸・ピット・・・1/60

全体図・・・1/150

遺物　土器・石製品・・・1/3、1/4　　古銭・・・1/1

5　本文および表中の計測値については（　）は現存値を、〔　〕は復元値を表す。

6　遺構図、遺物実測図のトーン表現は以下の通りである。

遺物　須恵器（還元焔）：　　施釉：

7　主な火山降下物等の略称と年代は次の通りである。

As-B（浅間Ｂ軽石：1108）、Hr-FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ：６世紀中葉）、

Hr-FA（榛名二ッ岳渋川テフラ：６世紀初頭）、As-C（浅間Ｃ軽石：３世紀後葉～４世紀前半）

目　　次

巻頭図版１

巻頭図版２

はじめに

例言・凡例

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1

Ⅱ　遺跡の位置と環境 …… 2

Ⅲ　調査の方針と経過

　1　調査範囲と基本方針 …… 8

　2　調査経過 …… 8

Ⅳ　基本層序 …… 8

Ⅴ　遺構と遺物

　1　溝跡 …… 9

　2　井戸跡 …… 9

　3　ピット …… 10

Ⅵ　まとめ …… 19

挿図目次

Fig.1　遺跡の位置 …… 1

Fig.2　前橋の地形 …… 2

Fig.3　周辺遺跡図 …… 3

Fig.4　周辺調査地点とグリッド設定図 …… 7

Fig.5　基本層序 …… 8

Fig.6　元総社蒼海遺跡群（135）全体図 …… 11

Fig.7　Ｗ－１号溝跡 …… 12

Fig.8　Ｗ－２・３号溝跡、Ｉ－５号井戸跡（１） …… 13

Fig.9　Ｗ－２・３号溝跡、Ｉ－５号井戸跡（２） …… 14

Fig.10　Ｉ－１～４・６号井戸跡、ピット …… 15

Fig.11　出土遺物（１） …… 16

Fig.12　出土遺物（２） …… 17

Fig.13　出土遺物（３） …… 18

Fig.14　元総社蒼海遺跡群（135）周辺蒼海城想定図 …… 20

表目次

Tab.1　周辺遺跡一覧表…… 4
Tab.2　ピット計測表……10
Tab.3　出土遺物観察表……18

写真図版目次

PL. 1　調査区遠景（南から、右上が蒼海城本丸）
PL. 2　調査区全景（上が北）、調査区全景（南から）
PL. 3　W－１号溝跡全景（南から）、W－１号溝跡近景（北から）
PL. 4　W－２・３号溝跡全景（東から）、W－２号溝跡近景（東から）
PL. 5　W－３号溝跡全景（東から）、Ⅰ－１号井戸跡全景（東から）、Ⅰ－２号井戸跡全景（北から）、
Ⅰ－３号井戸跡全景（南から）、Ⅰ－４号井戸跡全景（南から）
PL. 6　Ⅰ－５号井戸跡全景（東から）、Ⅰ－６号井戸跡全景（北から）、P－１～10号ピット全景（南から）、
P－１号ピット全景（南から）、P－２・３号ピット全景（南から）
PL. 7　P－４号ピット全景（南から）、P－５・６・７号ピット全景（東から）、P－８・９号ピット全景（南から）、
P－10号ピット全景（東から）、P－11号ピット全景（南から）、P－12号ピット全景（南から）、
P－13号ピット全景（南から）、P－14号ピット全景（南から）
PL. 8　P－15号ピット全景（南から）、P－16号ピット全景（南から）、P－17号ピット全景（南から）、
P－18号ピット全景（南から）、P－19号ピット全景（南から）、P－20号ピット全景（南から）、
P－21号ピット全景（南から）、基本層序（南から）
PL. 9　出土遺物
PL.10　出土遺物

引用・参考文献

中世土器研究会編　1995　『概説　中世の土器・陶磁器』　真陽社
中村岳彦　2018　「“推定上野国府”周辺の古代景観　－元総社蒼海遺跡群の溝と道－」『群馬文化』第332号
群馬県地域文化研究協議会
山崎　一　1978　『群馬県古城塁址の研究　上巻』　群馬県文化事業振興会
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2009　『元総社蒼海遺跡群（21）』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2009　『元総社蒼海遺跡群（23）』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2009　『元総社蒼海遺跡群（29）』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2010　『元総社蒼海遺跡群（31）』
前橋市教育委員会　2011　『元総社蒼海遺跡群（36）』
前橋市教育委員会　2013　『元総社蒼海遺跡群（44）、（45）』
前橋市教育委員会　2013　『元総社蒼海遺跡群（47）』
前橋市教育委員会　2014　『元総社蒼海遺跡群（57）、（58）、（59）』
前橋市教育委員会　2017　『元総社蒼海遺跡群（124）』
前橋市教育委員会　2019　『元総社蒼海遺跡群（130）』

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、21 年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年にわたって行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

令和元年５月７日付で前橋市長　山本　龍（区画整理課）（以下「前橋市」という。）より試掘確認調査依頼が提出された。これを受け、前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）で同年５月 30 日に試掘確認調査を実施した結果、遺構が検出され、工事計画から遺構の現状保存は困難であると判断したため、記録保存を目的とした発掘調査実施に向けて協議を進めた。

令和元年６月 21 日付で前橋市より、埋蔵文化財発掘調査・整理業務に係る依頼が、市教委に提出された。市教委では既に他の発掘調査を実施中のため、市教委直営による調査実施が困難であると判断し、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意に至った。業務実施にあたっては市教委の作成する調査仕様書に則り、市教委による監理・指導のもと発掘調査を実施することとなった。同年８月 30 日付で前橋市と民間調査組織である技研コンサル株式会社との間で業務委託契約が締結され発掘調査に着手した。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（135）」（遺跡コード：1A244）の「元総社蒼海」は土地区画整理事業名を採用し、「（135）」は過年度に実施した発掘調査と区別するために付したものである。

Fig.1　遺跡の位置

Ⅱ　遺跡の位置と環境

地理的環境（Fig. 1）　元総社蒼海遺跡群（135）は、前橋市街地から利根川を隔て西へ約 3.6km の地点、前橋市元総社町地内に所在する。遺跡地の西側には関越自動車道が南北に、南側には国道 17 号、主要地方道の県道足門･前橋線、前橋･安中･富岡線が東西に、また東側には市道大友・石倉線が南北にそれぞれ走っている。

遺跡は、榛名山山麓の相馬ヶ原扇状地端部と前橋台地との移行地帯に立地する。遺跡周辺には、相馬ヶ原扇状地の伏流水を水源とする牛池川、染谷川が流れている。これらの河川の開析作用によって細長い微高地と低地が多く形成されており、その比高差は３～５ｍを測る。遺跡が立地する周辺は主に畑地として利用されていたが、前橋市中心部から続く市街地の西端にあたり、近年では元総社蒼海土地区画整理事業の進展によって宅地や商業施設が立ち並び、市街地化が拡大している。

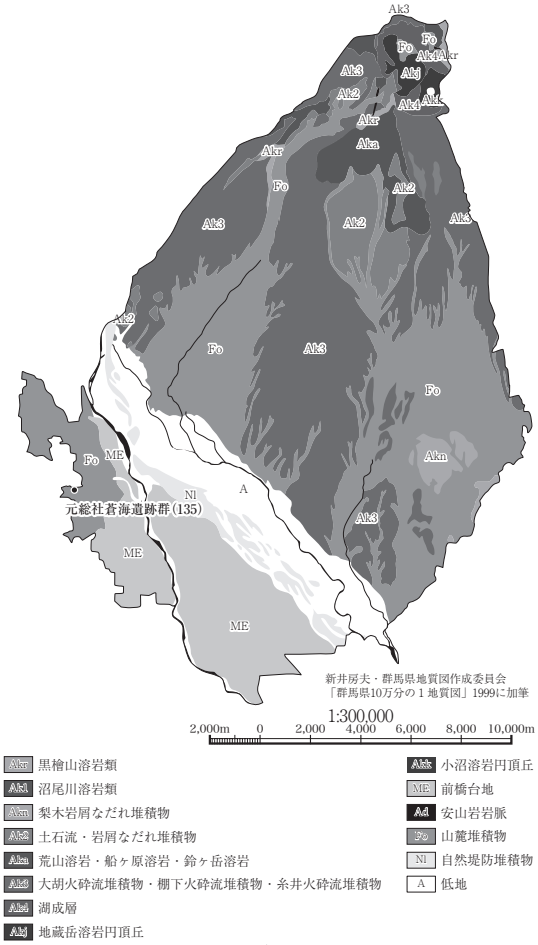


Fig. 2　前橋の地形

歴史的環境（Fig. 3・Tab. 1）　本遺跡が所在する元総社地域は、上野国府推定地や上野国分寺・国分尼寺を中心に連綿と遺跡が広がる地域であり、関越自動車道建設や区画整理事業などに伴う発掘調査が行われ、多くの遺構が確認されている。本遺跡周辺地域での時代毎の遺跡の概要は以下の通りである。

（1）縄文時代　八幡川右岸の微高地上に産業道路東［15］・産業道路西［16］、本遺跡の立地する牛池川右岸台地上に上野国分僧寺・尼寺中間地域［22］・元総社小見Ⅲ遺跡［59］・元総社蒼海遺跡群（24）などが挙げられ、竪穴住居跡が確認されている。本遺跡でも縄文時代前期から中期にかけての遺構を確認している。

（2）弥生時代　日高遺跡［18］［19］・上野国分僧寺尼寺中間地域［22］・正観寺遺跡［21］などがあるが、その分布は散在的である。この内、日高遺跡では浅間Ｃ軽石下の水田跡が確認されており、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて継続して営まれた水田と捉えられている。

（3）古墳時代　本遺跡周辺は県内でも有数の古墳密集地域であり、それを代表するものとして総社古墳群が挙げられる。古墳時代後期・終末期に亘り、王山古墳［７］・総社二子山古墳［12］・愛宕山古墳［10］・宝塔山古墳［13］・蛇穴山古墳［８］などの首長墓が多数築造された。また、この時期には山王廃寺［４］が建立され、総社古墳群を含め、政治的中枢地域となる。

山王廃寺は昭和３年に日枝神社境内が「山王塔址」として国指定史跡となり、その後昭和 49 ～ 56 年にかけて７次にわたる本格的な発掘調査が行われた。この調査で金堂の検出および「放光寺」箆書の平瓦出土により山王廃寺が「山ノ上碑」「上野国交替実録帳」にみられる「放光寺」であることが有力視されるようになった。平成９～ 11 年の調査でも土坑から大量の塑像が出土し、平成 18・19 年度調査では北・東・西面、平成 20 年度調査では南面の回廊を検出している。さらに平成 21 年度調査では「推定中門」と「西側南側回廊」の周辺部が、平成 22 年度調査では北西隅の回廊と接するように「基壇建物跡」と「北方建物群」が確認されている。なお、この寺の塔心礎や石製鴟尾、根巻石等の石造物群は宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術によるものと考えられており、仏教文化と古墳文化とが併存しながら機能していた様子が窺える。

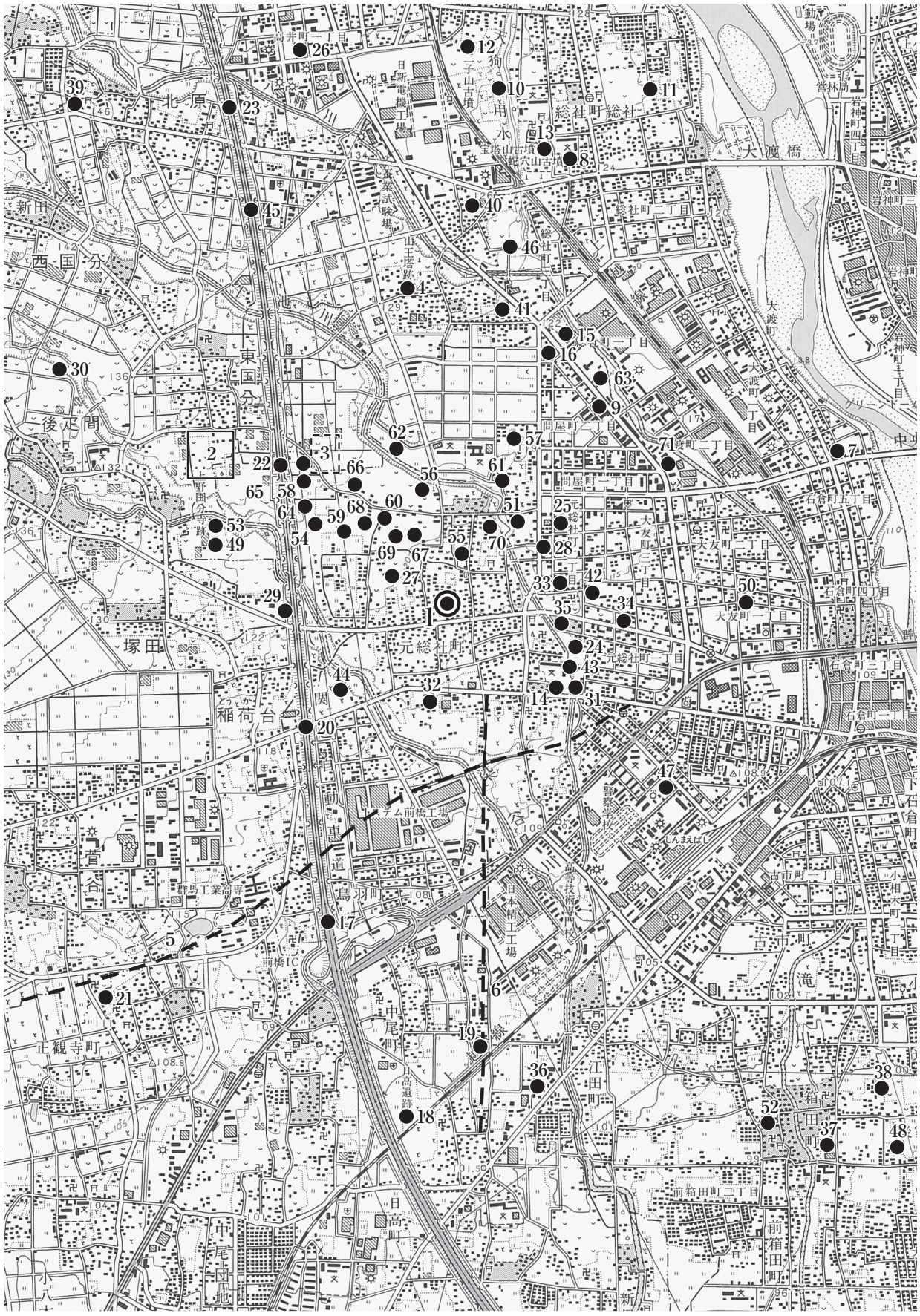

1：25,000
500m
0
500
1000
1500
大渡橋
総社町
元総社町
稲荷台
塚田
北原
西国分
東国分
後閑
新田
中尾
前橋IC
前橋工業高専
日本精工工場
高等技術専門校
警察学校
大友町
石倉町
古市町
前箱田町
江田町
日高町
正観寺町
営谷
鳥羽町
高井町一丁目
日高遺跡
中尾団地
新

Fig. 3　周辺遺跡図

この時代の集落は牛池川と染谷川に挟まれた台地上に展開しているが、前期～中期の集落は散見される程度で、後期からの集落増加が看取できる。生産域としては、牛池川左岸一帯に広がる低地平野において、元総社明神遺跡、元総社北川遺跡、総社閑泉明神北Ⅳ・Ⅴ遺跡などで水田跡が確認されている。

（4）奈良・平安時代　奈良時代には上野国府が造営され、上野国分寺［2］・国分尼寺［3］の建立に示されるように、本遺跡周辺は古代の政治・経済・文化の中心地として再編成される。

上野国府は本遺跡付近の区域に約 900m 四方に推定され、関連遺跡として元総社小学校校庭遺跡［14］では県下最大級の掘立柱建物跡が検出され、元総社蒼海遺跡群（99）、上野国府等範囲内容確認調査 28・33・34 トレンチでは掘込地業を持つ建物跡が、元総社蒼海遺跡群（95）では方形の柱穴掘り方をもつ大型掘立柱建物跡が確認されている。元総社寺田遺跡［43］では「國府」・「曹司」・「国」・「邑厨」などの墨書土器や人形（ひとがた）が出土している。元総社明神遺跡［24］では南北方向の溝跡、閑泉樋遺跡［25］や元総社蒼海遺跡群（7）・（9）・（10）では東西方向の溝跡が確認され、国府域の外郭線の想定が為されている。また、周辺遺跡からは円面硯や緑釉陶器、巡方（腰帯具）なども出土しており、国府を考える上で貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正 15 年に国指定史跡となり、昭和 40 年代から部分的な発掘調査が進められるようになった。昭和 55 年以降には本格的な調査が始まり、主要伽藍の礎石・築垣・堀等が確認されている。また、平成 24 年度から 28 年度にかけての第２期発掘調査において、これまでの金堂が講堂であったことが判明する等、伽藍配置の変更が行われている。国分尼寺は昭和 44・45 年のトレンチ調査により伽藍配置が推定され、その後平成 12 年度に前橋市埋蔵文化財発掘調査団により南辺での寺域確認調査が行われた。調査の結果、南東・南西隅の築垣と、それに平行する溝跡や道路状遺構等が確認されている。また、高崎市教育委員会による平成 28 年度の調査で講堂跡が尼坊跡であったことが判明し、平成 29 年度の調査では回廊跡の一部が確認されている。関連遺跡としては鳥羽遺跡［20］で神社遺構と工房跡が確認され、上野国分僧寺・尼寺中間地域［22］では大規模な集落・掘立柱建物跡群が検出されている。また、近郊には N - 64° - E 方向に東山道（国府ルート）が、日高遺跡［19］では幅約 4.5m の推定日高道が国府方向へ延びると推定されている。

当該期の一般的な集落は、古墳時代と同様に牛池川と染谷川に挟まれた台地上に立地するが、国府推定域の中心部での分布は少なく、国府域と居住域の区分けが看取できる。近年の調査による元総社蒼海遺跡群（40）で８世紀後半の住居跡内の一角に鍛冶遺構が検出されている。元総社蒼海遺跡群（41）では９世紀後半の鍛冶工房が検出され、同遺跡からは金の付着した灰釉陶器や奈良三彩といった貴重な遺物が出土している。また、元総社蒼海遺跡群（64）では８世紀前半には廃絶されたと考えられる製鉄炉跡（箱型炉）が１基、元総社稲葉遺跡［47］では 10 世紀に想定される製鉄炉跡（小型自立炉）が２基確認されている。

（5）中世　室町時代になると上野国守護上杉氏から守護代に任命された長尾氏が蒼海城を本拠地としこの地を治めた。元総社蒼海遺跡群では蒼海城の堀跡が多く検出されており、12 ～ 15 世紀の青白磁梅瓶、青磁酒会壺蓋・袴腰香炉などの貿易陶磁が多数出土している。天正年間以降は諏訪･秋元氏が蒼海城に入り当地の領主となるが、慶長６年（1601 年）に秋元長朝が総社城に移ると同時に蒼海城は廃城となった。また、当該期の周辺遺跡では大渡道場遺跡［71］の貨幣埋納遺構から 572 枚におよぶ銭貨が撚紐を通した「緡（さし）」の状態で六緡出土している。

Tab. 1　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	**元総社蒼海遺跡群（135）**	11	遠見山古墳	21	正観寺遺跡Ⅰ～Ⅳ	31	寺田遺跡	41	昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡
2	上野国分寺跡	12	総社二子山古墳	22	上野国分僧寺・尼寺中間地域	32	天神遺跡・Ⅱ遺跡	42	堰越Ⅱ遺跡
3	上野国分尼寺跡	13	宝塔山古墳	23	北原遺跡	33	屋敷遺跡・Ⅱ遺跡	43	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ
4	山王廃寺跡	14	元総社小学校校庭遺跡	24	元総社明神遺跡Ⅰ～XⅢ	34	堰越遺跡	44	弥勒遺跡・Ⅱ遺跡
5	東山道（推定）	15	産業道路東遺跡	25	閑泉樋遺跡	35	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	45	国分境遺跡・Ⅱ・Ⅲ遺跡
6	日高道（推定）	16	産業道路西遺跡	26	柿木遺跡・Ⅱ遺跡	36	勝呂遺跡	46	大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅵ
7	王山古墳	17	中尾遺跡	27	草作遺跡	37	村前遺跡	47	元総社稲葉遺跡
8	蛇穴山古墳	18	日高遺跡	28	閑泉樋南遺跡	38	五反田遺跡	48	五反田Ⅱ遺跡
9	稲荷山古墳	19	日高遺跡	29	塚田村東遺跡	39	熊野谷遺跡・Ⅱ・Ⅲ遺跡	49	上野国分寺参道遺跡
10	愛宕山古墳	20	鳥羽遺跡	30	後疋間遺跡Ⅰ～Ⅲ	40	村東遺跡	50	大友宅地添遺跡

番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
51	総社閑泉明神北遺跡・Ⅱ遺跡	56	元総社小見内Ⅲ遺跡	61	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ・Ⅳ遺跡	66	元総社小見内Ⅶ遺跡	71	大渡道場遺跡
52	箱田川西遺跡	57	総社甲稲荷塚大道西遺跡・Ⅱ遺跡	62	元総社北川遺跡	67	元総社小見内Ⅷ遺跡		
53	元総社西川遺跡	58	元総社小見内Ⅱ遺跡	63	稲荷塚道東遺跡	68	元総社小見Ⅸ・元総社小見内Ⅸ遺跡		
54	元総社小見遺跡	59	元総社小見内Ⅲ遺跡	64	元総社小見Ⅳ・Ⅵ遺跡	69	元総社小見内Ⅹ遺跡		
55	元総社宅地遺跡１～23トレンチ	60	元総社小見内Ⅳ・Ⅵ遺跡	65	元総社小見Ⅴ遺跡	70	総社閑泉明神北Ⅴ遺跡		

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・遺物
－	元総社蒼海遺跡群（１）	2005	古墳～平安：住居跡・掘立柱建物跡・区画溝・道路状遺構ヵ、中世：堀跡（蒼海城）　◇縄文土器（前期）・緑釉・灰釉・盤・こね鉢・鉄鏃・鉄鋲・腰帯具・権ヵ
－	元総社蒼海遺跡群（２）	2005	奈良・平安：住居跡・竪穴状遺構・大溝・土坑墓、中世以降：土坑墓・道路状遺構　◇灰釉・盤・高盤・鉄鏃・埴輪
－	元総社蒼海遺跡群（３）・元総社小見Ⅶ遺跡	2005	縄文：住居跡、古墳・奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・道路状遺構、中世：畠跡　◇縄文土器（前～後期）・灰釉・円面硯・権ヵ・紡錘車・墨書「墓」・土錘
－	元総社蒼海遺跡群（４）	2005	縄文：住居跡、古墳・奈良・平安：住居跡・竪穴状遺構　◇縄文土器（前・中期）・灰釉・盤・鉄鉢形土器・飾金具・墨書「連」ヵ・紡錘車・土錘・臼玉・石製模造品
－	元総社蒼海遺跡群（５）	2005	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：道路状遺構・周溝状遺構・土坑墓・火葬墓　◇暗文坏・板碑・管玉・臼玉
－	元総社蒼海遺跡群（６）	2005	古墳：砂岩採掘坑、奈良・平安：住居跡・竪穴状遺構・鍛冶遺構・区画溝、中世：堀跡（蒼海城）・土坑墓　◇灰釉・鉄鏃
－	元総社蒼海遺跡群（７）	2005	平安：住居跡・大溝・砂岩採掘坑、中世：大溝　◇灰釉・羽口・埴輪
－	元総社蒼海遺跡群（８）	2006	古墳・奈良・平安：住居跡、中世以降：道路状遺構　◇緑釉・灰釉・三足土器・灯明具・鉄鏃・鉄鍋・勾玉
－	元総社蒼海遺跡群（９）（10）	2006	縄文：住居跡、古墳：住居跡・竪穴状遺構、飛鳥：住居跡・掘立柱建物跡・大溝、奈良・平安：住居跡・竪穴状遺構・大溝・砂岩採掘坑　◇縄文土器（中期～晩期）・弥生土器（中期）・灰釉・鉄鏃・小札・鉄鎌・紡錘車・土錘・石製模造品・埴輪
－	元総社蒼海遺跡群（11）	2006	古墳～平安：住居跡・竪穴状遺構、中世：堀跡（蒼海城）　◇縄文土器（前・中期）・灰釉・暗文坏・土錘・勾玉・臼玉
－	元総社蒼海遺跡群（12）	2006	古墳・奈良・平安：住居跡、中世以降：土坑墓　◇灰釉・暗文坏・鉄鏃
－	元総社蒼海遺跡群（13）	2008	縄文：住居跡、古墳・飛鳥：住居跡、奈良・平安：住居跡・工房跡・道路状遺構・大溝、中世：土坑墓　◇縄文土器（前期）・緑釉・灰釉・馬具・鉄鏃・鉄釜ヵ・紡錘車・鬼瓦
－	元総社蒼海遺跡群（14）	2008	古墳：住居跡・水田跡・畠跡、飛鳥：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：堀跡（蒼海城）・竪穴状遺構　◇灰釉・暗文坏　［国庁Ａ案推定域］
－	元総社蒼海遺跡群（15）	2008	奈良・平安：住居跡、中世：土坑墓　◇灰釉・灯明具
－	元総社蒼海遺跡群（16）	2008	奈良・平安：住居跡・畠跡　◇灰釉・盤
－	元総社蒼海遺跡群（17）	2008	古墳：住居跡・竪穴状遺構・区画溝、平安：住居跡、中世：土坑墓　◇縄文土器（前期）・弥生土器（後期）・灰釉・灯明具
－	元総社蒼海遺跡群（18）	2008	平安：住居跡、中世以降：土坑墓　◇灰釉・盤・鉗子ヵ・青磁（12c）
－	元総社蒼海遺跡群（19）	2008	古墳：水田跡　◇木製舟形容器
－	元総社蒼海遺跡群（20）	2008	古墳・飛鳥：住居跡、奈良・平安：住居跡・竪穴状遺構・道路状遺構、中世：土坑墓　◇縄文土器（前～後期）・灰釉陶器・盤・須恵器「壺Ｇ」・暗文坏・灯明具・鉄鏃・鉄鎌・腰帯具・鬼瓦　［国庁Ａ案推定域、国分尼寺南辺含む］
－	元総社蒼海遺跡群（21）	2009	奈良・平安：大溝、中世：堀跡（蒼海城）・盛土状遺構・方形竪穴　◇灰釉・白磁（12c）・青磁（15c）　［国庁Ｂ案推定域］
－	元総社蒼海遺跡群（22）	2009	古墳・飛鳥：住居跡、平安：住居跡・竪穴状遺構・道路状遺構ヵ　◇灰釉・暗文坏・洗（大形盤）ヵ・灯明具・鉄鍵
－	元総社蒼海遺跡群（23）	2009	古墳・飛鳥：住居跡、奈良・平安：住居跡・大溝、中世：堀跡（蒼海城）　◇白磁（15c）・青磁（13～15c）・天目茶碗　［国庁Ｂ案推定域］
－	元総社蒼海遺跡群（24）	2009	縄文：住居跡、古墳・飛鳥：住居跡、奈良・平安：住居跡・竪穴状遺構、中世：方形竪穴・道路状遺構　◇縄文土器（前・中期）・灰釉・盤・竈形土製品・腰帯具・鉄鏃・紡錘車・土錘・青磁（14c）
－	元総社蒼海遺跡群（25）	2009	古墳・平安：住居跡　◇灰釉・鉄鏃・青白磁梅瓶（12～14c）　［国庁Ａ案推定域］
－	元総社蒼海遺跡群（26）	2009	飛鳥・奈良：住居跡、平安：住居跡・竪穴状遺構、土坑墓、中世：堀跡（蒼海城）　◇緑釉・灰釉・円面硯・盤・高盤・暗文坏・紡錘車・鉄鏃・腰帯具・土錘・墨書「大舘」
－	元総社蒼海遺跡群（27）	2009	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・竪穴状遺構、中世：堀跡（蒼海城）・方形竪穴　◇縄文土器（前～晩期）・弥生土器（後期）・灰釉・盤・洗ヵ・灯明具・鉄鏃・埴輪
－	元総社蒼海遺跡群（28）	2009	古墳：住居跡・大溝、奈良・平安：住居跡・竪穴状遺構、中世：堀跡（蒼海城）・方形竪穴　◇縄文土器（前～晩期）・弥生土器（後期）・灰釉・盤・鉄鏃・馬具・紡錘車・羽口・埴輪
－	元総社蒼海遺跡群（29）	2009	古墳～平安：住居跡、中世以降：堀跡（蒼海城）・掘立柱建物跡・地下式坑・土坑墓・火葬跡　◇灰釉・鉄鏃・鉄滓　［国庁Ｂ・Ｃ案推定域］
－	元総社蒼海遺跡群（30）	2009	古墳・平安：住居跡、中世：堀跡（蒼海城）・道路状遺構・土坑墓・火葬跡　◇縄文土器（前・中期）・鉄鏃
－	元総社蒼海遺跡群（31）	2009	古墳：住居跡、中世：堀跡（蒼海城）、時期不明：道路状遺構　◇土錘・埴輪　［国庁Ａ案推定域］
－	元総社蒼海遺跡群（32）	2010	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：堀跡（蒼海城）・竪穴状遺構　◇縄文土器（前期）・灰釉・鉄鏃　［国庁Ｄ案推定域含む］
－	元総社蒼海遺跡群（33）	2010	古墳：粘土採掘坑、飛鳥・奈良：住居跡、平安：住居跡・大溝ヵ・土坑墓　中世：堀跡（蒼海城）・方形竪穴・土坑墓　◇高盤・こね鉢・鉄鉢形土器
－	元総社蒼海遺跡群（34）	2010	奈良・平安：住居跡、中世以降：堀跡（蒼海城）・竪穴状遺構　◇灰釉・暗文坏・羽口・紡錘車
－	元総社蒼海遺跡群（35）	2010	縄文：住居跡、古墳・飛鳥：住居跡、奈良・平安：住居跡・布掘掘立柱建物跡・掘立柱建物跡、中世：堀跡（蒼海城）・土坑墓　◇縄文土器（前期）・灰釉・高盤・盤・畿内産暗文坏・鉄斧・鉄鑿ヵ・紡錘車・墨書「田」「天」（則天文字）
－	元総社蒼海遺跡群（36）	2010	古墳：畠跡、平安：住居跡・水田跡・大溝・砂岩採掘坑、中世：堀跡（蒼海城）　◇灰釉・盤・灯明具・鉄鏃・埴輪・板碑　［国庁Ｂ案推定域］
－	元総社蒼海遺跡群（37）	2011	古墳・飛鳥：住居跡、平安：住居跡・竪穴状遺構・土坑墓、中世：堀跡（蒼海城）　◇縄文土器（後期）・弥生土器（後期）・灰釉・こね鉢・灯明具・権ヵ・鉄鏃・弓筈ヵ・馬具・羽口・鉄滓・炉壁・紡錘車・土錘・耳環・臼玉・石製模造品　［国庁Ａ・Ｄ案推定域］
－	元総社蒼海遺跡群（38）	2012	古墳：住居跡・竪穴状遺構・砂岩採掘坑・前方後方形周溝墓ヵ・土器集積・水田跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・大溝・道路状遺構、中世以降：堀跡（蒼海城）・大溝　◇灰釉・高盤・灯明具・腰帯具・鉄鏃・銅鈴・鉄鎌・土錘　［国庁Ａ・Ｄ案推定域含む］
－	元総社蒼海遺跡群（39）	2012	古墳：住居跡、平安：住居跡・土坑墓、中世以降：大溝　◇弥生土器（前～中期）・灰釉・獣脚土器・灯明具・鉄鏃・鉗子ヵ・小札・刀装具・馬具・腰帯具・鉄鎌・羽口・紡錘車・土錘・切子玉・臼玉　［国庁Ｄ案推定域］
－	元総社蒼海遺跡群（40）	2013	縄文：住居跡、古墳・飛鳥：住居跡・竪穴状遺構、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・鍛冶遺構・道路状遺構　◇縄文土器（前～後期）・灰釉・盤・円面硯ヵ・鉄鏃・腰帯具・紡錘車
－	元総社蒼海遺跡群（41）	2013	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・鍛冶遺構、中世：掘立柱建物跡・道路状遺構　◇縄文土器（前期）・青磁・奈良三彩・緑釉・灰釉（金付着）・盤・鉄鉢形土器・暗文坏・円面硯・須恵器「壺Ｇ」・灯明具・鉄鏃・鉄鉗・腰帯具・羽口・紡錘車・臼玉・刻書「☆（五芒星）」・墨書「金」
－	元総社蒼海遺跡群（42）	2013	（遺構なし）
－	元総社蒼海遺跡群（43）	2013	奈良・平安：住居跡、中世：道路状遺構　◇高盤
－	元総社蒼海遺跡群（44）	2013	奈良・平安：住居跡、中世：堀跡（蒼海城）
－	元総社蒼海遺跡群（45）	2013	古墳・平安：住居跡、中世：堀跡（蒼海城）・地下式坑　◇三足土器・鉄滓・羽口　［国庁Ｃ案推定域］
－	元総社蒼海遺跡群（46）	2013	平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（47）	2013	中世：堀跡（蒼海城）・柱列跡
－	元総社蒼海遺跡群（48）	2013	縄文：住居跡、古墳～奈良：住居跡、平安：住居跡・竪穴状遺構・埋没谷　◇縄文土器（前・中期）・灰釉・高盤・盤・暗文坏・鉄鏃・鉄鎌・鉄鋤・鉄滓・紡錘車・臼玉
－	元総社蒼海遺跡群（49）	2013	平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（50）	2013	縄文：住居跡、奈良・平安：住居跡　◇灰釉
－	元総社蒼海遺跡群（51）	2013	古墳・奈良：住居跡　◇盤・暗文坏
－	元総社蒼海遺跡群（52）	2013	（遺構なし）
－	元総社蒼海遺跡群（53）	2013	古墳～平安：住居跡　◇灰釉・灯明具・紡錘車・石製模造品　［国庁Ｄ案推定域］
－	元総社蒼海遺跡群（54）	2013	（遺構なし）
－	元総社蒼海遺跡群（55）	2013	奈良：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（56）（61）	2013	古墳：方形周溝墓・住居跡・竪穴状遺構、奈良・平安：住居跡　◇縄文土器（前・中期）・弥生土器（後期）・紡錘車
－	元総社蒼海遺跡群（57）	2014	中世：堀跡（蒼海城）　◇高盤・馬骨・青磁（15～16c）　［国庁Ｂ案推定域］
－	元総社蒼海遺跡群（58）	2014	平安：大溝、中世：堀跡（蒼海城）　◇灰釉・温石　［国庁Ｂ案推定域］
－	元総社蒼海遺跡群（59）	2014	平安：住居跡、中世：堀跡（蒼海城）・方形竪穴
－	元総社蒼海遺跡群（60）	2014	古墳：住居跡、飛鳥：大溝、平安：住居跡、中世：堀跡（蒼海城）　◇緑釉・灰釉（朱墨転用硯）・盤・円面硯・刀装具・鉄滓
－	元総社蒼海遺跡群（62）	2014	古墳：周溝墓
－	元総社蒼海遺跡群（63）	2014	古墳・平安：住居跡　◇紡錘車・管玉・臼玉
－	元総社蒼海遺跡群（64）	2014	奈良ヵ：製鉄炉、平安：住居跡、中世：方形竪穴・土坑墓　◇鉄滓・炉壁　［国庁Ａ案推定域］
－	元総社蒼海遺跡群（65）	2014	古墳・平安：住居跡、中世：堀跡（蒼海城）　◇灰釉　［国庁Ｃ案推定域］
－	元総社蒼海遺跡群（66）	2013	古墳：住居跡、中世：堀跡（蒼海城）
－	元総社蒼海遺跡群（67）	2013	古墳：住居跡

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
－	元総社蒼海遺跡群（68）	2013	**奈良**：住居跡、**中世以降**：方形竪穴
－	元総社蒼海遺跡群（72）	2013	**平安**：住居跡　◇灰釉
－	元総社蒼海遺跡群（73）	2013	**時期不明**：道路状遺構
－	元総社蒼海遺跡群（74）	2014	**古墳・平安**：住居跡、**中世**：井戸
－	元総社蒼海遺跡群（75）	2014	**平安**：住居跡　**中世**：堀跡（蒼海城）　◇埴輪
－	元総社蒼海遺跡群（76）	2014	**平安**：住居跡　◇灰釉・灯明具
－	元総社蒼海遺跡群（77）	2014	（遺構僅か）
－	元総社蒼海遺跡群（78）	2014	**古墳・飛鳥・平安**：住居跡、**中世**：井戸　◇灰釉・埴輪・鉄鏃ヵ
－	元総社蒼海遺跡群（79）	2014	**古墳～奈良**：住居跡、**平安**：住居跡・土坑墓　◇緑釉・灰釉・鉄鏃・権・臼玉・墨書「方」ヵ
－	元総社蒼海遺跡群（80）	2014	**古墳～平安**：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（81）	2014	**古墳**：方形周溝墓・住居跡、**飛鳥**：住居跡、**奈良・平安**：住居跡・竪穴状遺構　◇紡錘車・管玉・臼玉・石製模造品
－	元総社蒼海遺跡群（82）	2014	**古墳・平安**：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（83）	2014	（遺構僅か）
－	元総社蒼海遺跡群（84）	2014	**飛鳥**：住居跡　◇高盤
－	元総社蒼海遺跡群（85）	2014	**飛鳥～平安**：住居跡、**中世**：堀跡（蒼海城）　◇緑釉・灰釉・羽口
－	元総社蒼海遺跡群（88）	2014	**時期不明**：畠跡
－	元総社蒼海遺跡群（89）	2014	**中世**：竪穴状遺構
－	元総社蒼海遺跡群（90）	2014	**中世**：竪穴状遺構
－	元総社蒼海遺跡群（91）	2014	**飛鳥～平安**：住居跡、**中世**：堀跡（蒼海城）　◇灰釉・盤・金銅小仏
－	元総社蒼海遺跡群（92）	2014	（遺構なし）
－	元総社蒼海遺跡群（94）	2014	**中世**：堀跡（蒼海城）　◇鉄滓
－	元総社蒼海遺跡群（95）	2014	**古墳・飛鳥**：住居跡、**奈良・平安**：住居跡・掘立柱建物跡・大溝　◇灰釉・灯明具　［国庁Ｃ案推定域］
－	元総社蒼海遺跡群（96）	2014	（遺構なし）　［国庁Ｃ案推定域］
－	元総社蒼海遺跡群（97）	2014	**平安**：住居跡、**中世**：堀跡（蒼海城）　◇灰釉・灯明具・馬具
－	元総社蒼海遺跡群（98）	2014	**中世**：掘立柱建物跡　［国庁Ｃ案推定域］
－	元総社蒼海遺跡群（99）・ 上野国府等範囲内容確認調査 33・34 トレンチ	2015	**奈良・平安**：掘込地業建物跡　［国庁Ｃ案推定域］
－	元総社蒼海遺跡群（100）	2014	**古墳**：周溝墓、**飛鳥**：住居跡、**奈良・平安**：住居跡・掘立柱建物跡、**中世**：掘立柱建物跡・道路状遺構　◇縄文土器（晩期）灰釉・鉄滓・埴輪
－	元総社蒼海遺跡群（101）	2014	**縄文**：竪穴状遺構・土坑墓、**飛鳥・奈良**：住居跡、**平安**：住居跡・掘立柱建物跡・土坑墓、**中世**：堀跡（蒼海城）・掘立柱建物跡 ◇縄文土器（後期）・灰釉・槍鉋ヵ
－	元総社蒼海遺跡群（102）	2015	**中世**：堀跡　◇灯明具　［国庁Ｂ案推定域］
－	元総社蒼海遺跡群（103）	2015	**縄文**：住居跡、**古墳～平安**：住居跡　◇縄文土器（前・中期）・灰釉・盤状坏・灯明具・「有鍔台付鉢」
－	元総社蒼海遺跡群（116）	2016	**縄文**：住居跡、**古墳～平安**：住居跡　◇縄文土器（前・中期）・灰釉・「那波郡朝倉」郷名墨書瓦・銅製錫杖頭
－	元総社蒼海遺跡群（117）	2016	**飛鳥**：住居跡、**奈良・平安**：区画溝
－	元総社蒼海遺跡群（118）	2016	**平安**：住居跡・土坑墓、**中世以降**：粘土採掘坑　◇灰釉・国分寺鬼瓦・鉄鏃
－	元総社蒼海遺跡群（120）	2016	**平安**：掘立柱建物跡　◇縄文土器（前期）
－	元総社蒼海遺跡群（121）	2016	**飛鳥**：住居跡・区画溝、**奈良・平安**：区画溝・土坑墓　◇貝巣穴痕軟質泥岩
－	元総社蒼海遺跡群（122）	2016	**古墳**：竪穴状遺構、**飛鳥・奈良**：住居跡、**平安**：住居跡・掘込地業建物跡・竪穴状遺構、**中世**：道路状遺構・堀跡（蒼海城）・土塁跡（蒼海城）　◇緑釉・灰釉・円面硯・馬具・鉄鏃・紡錘車・土錘・臼玉・刻書「奉」・墨書「国」ヵ「代」ヵ
－	元総社蒼海遺跡群（123）	2016	**縄文**：住居跡、**古墳～平安**：住居跡、**中世**：堀跡　◇縄文土器（中期）・緑釉陶器
－	元総社蒼海遺跡群（124）	2017	**中世**：堀跡（蒼海城）・土塁（蒼海城）　◇埴輪・火打金
－	元総社蒼海遺跡群（126）	2017	**平安**：住居跡、**中世**：堀跡（蒼海城）・土塁（蒼海城）
－	元総社蒼海遺跡群（128）	2018	**古墳**：住居跡・畠跡・炉跡、**平安**：水田跡　◇鉄滓
－	元総社蒼海遺跡群（129）	2018	**中世**：堀跡（蒼海城）　◇縄文土器（中期）・緑釉陶器
－	元総社蒼海遺跡群（130）	2018	**平安**：住居跡・土坑墓、**中世**：堀跡（蒼海城）　◇白磁・青磁
－	元総社蒼海遺跡群（131）	2018	**古墳**：住居跡、**平安**：住居跡、**中世**：堀跡（蒼海城）
－	**元総社蒼海遺跡群（135）**	2019	
－	元総社蒼海遺跡群（17 街区）	2015	**古墳**：住居跡、**奈良・平安**：住居跡・道路状遺構、**中世**：土坑墓・火葬跡　◇こね鉢ヵ・板碑
－	元総社蒼海遺跡群（93 街区）	2016	**古墳**：畠・粘土採掘坑、**奈良・平安**：住居跡・粘土採掘坑、**中世**：堀跡（蒼海城）・掘立柱建物跡　◇縄文土器（中・後期）・灰釉・暗文坏・転用硯・紡錘車・鉄滓
－	元総社蒼海遺跡群（94 街区）	2017	**縄文**：住居跡、**古墳**：住居跡、**奈良・平安**：住居跡　◇縄文土器（前・中・後期）・彩漆土器（縄文前期）、墨書「馬」「入田」
－	元総社小見遺跡	2000	**縄文・古墳**：住居跡、**奈良・平安**：住居跡・掘立柱建物跡・道路状遺構　◇縄文土器(中期)・緑釉・灰釉・水瓶・円面硯・馬具・鉄鏃・紡錘車・臼玉
－	元総社小見Ⅱ遺跡	2002	**縄文**：住居跡、**古墳**：住居跡、**奈良・平安**：住居跡・掘立柱建物跡、**中世**：道路状遺構　◇縄文土器（中期）・緑釉・灰釉・三足盤・双耳坏・灯明具・鉄鏃・鉄斧・鉗子・墨書「市」・紡錘車・臼玉
－	元総社小見Ⅲ遺跡	2002	**縄文**：住居跡、**古墳・飛鳥**：住居跡、**奈良・平安**：住居跡、**中世以降**：堀跡（蒼海城）・道路状遺構・土坑墓　◇縄文土器（中期）・緑釉・灰釉・暗文坏・国分寺鬼瓦・耳環・臼玉
－	元総社小見Ⅳ遺跡	2003	**縄文・古墳～平安**：住居跡、**中世**：道路跡　◇縄文土器（中期）・灰釉・灯明具・鉄鏃・弓筈ヵ・紡錘車・土錘
－	元総社小見Ⅴ遺跡	2003	**縄文**：住居跡、**古墳・平安**：住居跡・掘立柱建物跡、**中世**：畠跡　◇縄文土器（前～後期）・灰釉
－	元総社小見Ⅵ遺跡	2004	**縄文・古墳～平安**：住居跡　◇縄文土器（前・中期）・緑釉・灰釉・水瓶・鉄鏃・鉄斧・鉄鋤・鉄鎌・腰帯具・紡錘車・権ヵ・墨書「庄」
－	元総社小見内Ⅲ遺跡	2001	**弥生**：住居跡、**古墳**：住居跡、**飛鳥**：住居跡、**奈良・平安**：住居跡・掘立柱建物跡・区画溝・道路状遺構・土坑墓、**中世**：掘立柱建物跡・方形竪穴・堀跡（蒼海城）・道路状遺構・土坑墓・火葬墓　◇縄文土器（中期）・弥生土器（中期）・緑釉・灰釉・盤・こね鉢・暗文坏・風字硯・鉄鏃・火打金・鉗子・飾金具・腰帯具・竈形土製品・臼玉
－	元総社小見内Ⅳ遺跡	2002	**飛鳥**：住居跡、**奈良・平安**：住居跡・掘立柱建物跡・竪穴状遺構・道路状遺構・周溝状遺構、**中世**：堀跡（蒼海城）・土坑墓　◇灰釉・盤・こね鉢
－	元総社小見内Ⅵ遺跡	2003	**古墳・飛鳥**：住居跡、**平安**：住居跡・掘立柱建物跡・区画溝・道路状遺構・砂岩採掘坑、**中世**：掘立柱建物跡　◇灰釉・須恵器「壺Ｇ」・鉄鏃・臼玉
－	元総社小見内Ⅶ遺跡	2003	**縄文**：住居跡、**飛鳥**：住居跡、**奈良・平安**：大溝　◇縄文土器（中期）・盤
－	元総社小見内Ⅷ遺跡	2003	**奈良・平安**：住居跡、**中世**：方形竪穴　◇高盤・こね鉢・暗文坏
－	元総社小見内Ⅸ遺跡	2004	**奈良・平安**：住居跡・竪穴状遺構・土器埋納坑　◇灰釉・盤・灯明具・鉄鏃・紡錘車
－	元総社小見内Ⅹ遺跡	2004	**奈良・平安**：住居跡・工房跡・粘土採掘坑、**中世**：堀跡（蒼海城）・土坑墓・火葬跡・道路状遺構　◇縄文土器（晩期）・灰釉・金片・金粒
－	元総社草作遺跡	1984	**飛鳥～平安**：住居跡　◇縄文土器（中期）・高盤・腰帯具・白磁（15c）・青磁（13c）
－	元総社草作Ⅴ遺跡	2002	**古墳～平安**：住居跡・粘土採掘坑、**中世以降**：堀跡（蒼海城）・土坑墓・火葬跡　◇白磁（11c ～ 12c）・鉄鏃・臼玉
－	元総社宅地遺跡 1 ～ 8 トレンチ	2000	**古墳・平安**：住居跡　◇紡錘車　［国庁Ｄ案推定域］
－	元総社宅地遺跡 9 ～ 18・21 トレンチ	2000	**中世**：堀跡（蒼海城）・方形竪穴　［国庁Ｂ案推定域］
－	元総社宅地遺跡 19 トレンチ	2000	**中世**：堀跡（蒼海城）　［国庁Ｃ案推定域］
－	元総社宅地遺跡 20 トレンチ	2000	（遺構僅か）　［国庁Ａ案推定域］
－	元総社宅地遺跡 22・23 トレンチ・ 上野国府等範囲内容確認調査 13 トレンチ	2000・2012	**古墳**：住居跡、**飛鳥～平安**：住居跡（平安）・掘立柱建物跡（奈良）・大溝・道路状遺構　◇獣脚土器
－	上野国府等範囲内容確認調査 1 ～ 7 トレンチ	2011	**古墳**：住居跡、**奈良・平安**：住居跡（平安）・大溝・道路状遺構　［国庁Ａ案推定域］
－	上野国府等範囲内容確認調査 8 ～ 11・13・14・28 トレンチ	2012	**古墳**：住居跡、**奈良（8c 前半）**：住居跡、**奈良～平安**：住居跡・掘込地業建物跡　◇石製模造品　［国庁Ｃ案推定域］
－	上野国府等範囲内容確認調査 12 トレンチ	2012	**古墳・平安**：住居跡
－	上野国府等範囲内容確認調査 27 トレンチ	2016	**平安**：住居跡　◇緑釉・灰釉
－	上野国府等範囲内容確認調査 28 トレンチ	2016	**古墳**：住居跡、**奈良**：掘込地業建物跡、**平安**：住居跡・掘込地業建物跡　◇銅滓
－	上野国府等範囲内容確認調査 29 トレンチ	2016	**奈良・平安**：大溝、**中世**：堀跡（蒼海城）　◇墨書「夫」ヵ
－	上野国府等範囲内容確認調査 40 トレンチ	2017	**奈良・平安**：大溝
－	上野国分尼寺（上野国分尼寺寺域確認調査）	1969・1970・ 1999・2000	**奈良**：講堂跡・金堂跡・中門跡・東門跡・築地塀跡・住居跡、**平安**：住居跡
－	総社甲稲荷塚大道西遺跡	2001	**奈良・平安**：住居跡・掘立柱建物跡・用水路ヵ、**中世**：畠跡　◇緑釉・灰釉・勾玉・管玉
－	総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	2001	**古墳**：住居跡、**平安**：住居跡　◇緑釉・灰釉・銅鉢・紡錘車・管玉・鉄滓
－	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡	2002	**古墳**：住居跡、**奈良・平安**：住居跡・畠跡　◇緑釉・灰釉・石製模造品・紡錘車
－	総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	2003	**古墳**：畠跡、**中世以降**：道路状遺構・畠跡
－	総社閑泉明神北遺跡	1999	**古墳**：水田跡・畠跡　◇縄文土器（前～晩期）・灰釉・鉄滓・勾玉
－	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	2001	**古墳・平安**：住居跡　◇灰釉・管玉

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
－	総社閑泉明神北Ⅲ遺跡	2002	縄文・古墳～平安：住居跡　◇灯明具
－	総社閑泉明神北Ⅳ遺跡	2002 ～ 2004	古墳：水田跡・畠跡
－	総社閑泉明神北Ⅴ遺跡	2004	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡
－	閑泉樋遺跡	1983	古墳：住居跡、奈良・平安：大溝
－	閑泉樋南遺跡	1985	古墳：住居跡　◇紡錘車
－	元総社北川遺跡	2002 ～ 04	縄文～弥生：旧河道、古墳：住居跡・水田跡・粘土採掘坑・旧河道、平安：住居跡・掘立柱建物跡・畠跡、中世以降：掘立柱建物跡・水田跡・火葬墓　◇縄文土器（晩期）・弥生土器（後期）・灰釉・盤・暗文坏
－	元総社牛池川遺跡	2002 ～ 04	古墳：水田跡・土器集積遺構、中世：火葬跡
－	元総社中学校遺跡	2016	古墳：住居跡、奈良：住居跡、平安：住居跡・掘立柱建物跡　◇縄文土器（前・晩期）・緑釉・灰釉・鉄鉢形土器・三足土器・竈形土製品・「方光」銘瓦・臼玉

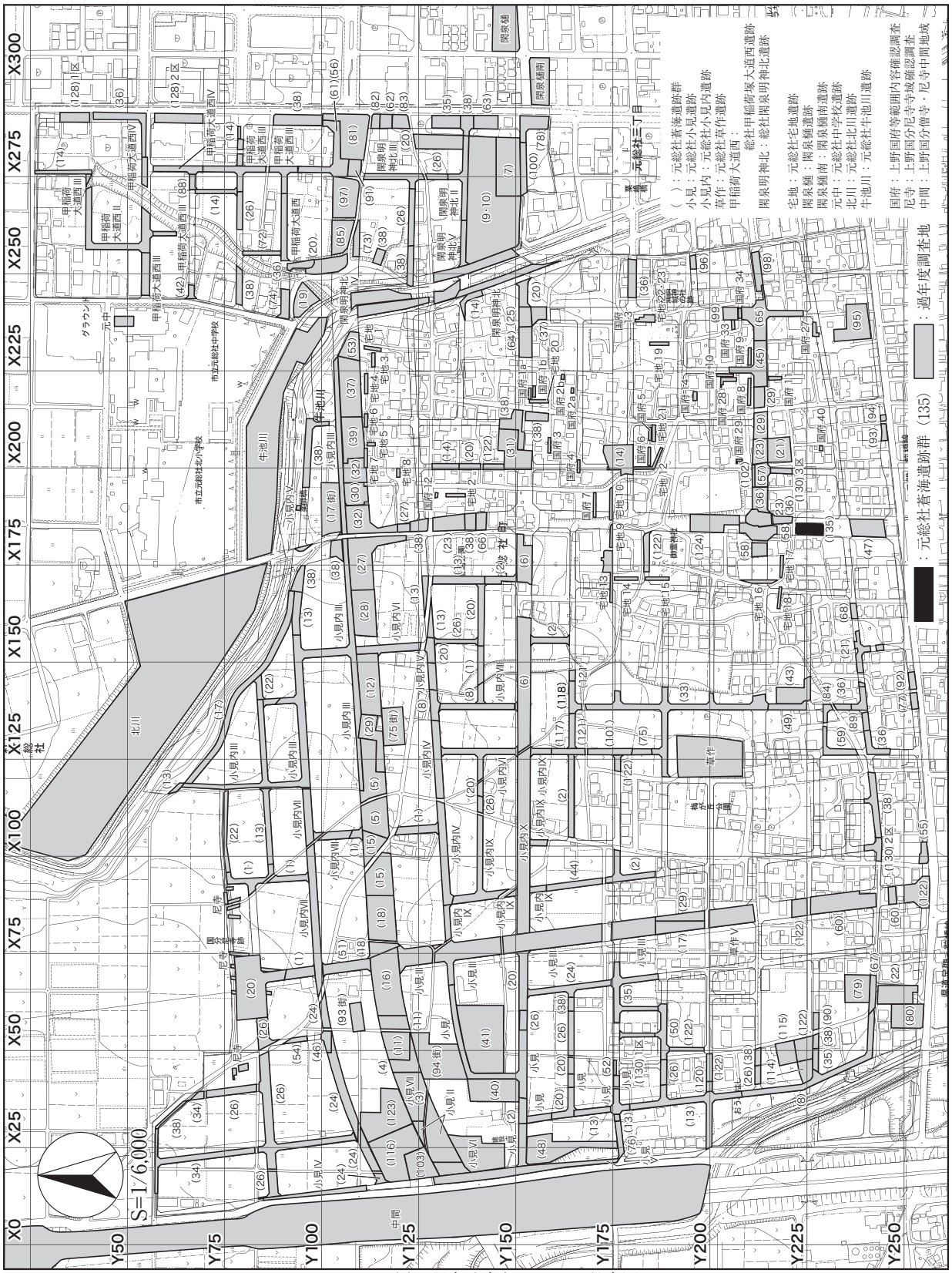


Fig. 4　周辺調査地点とグリッド設定図

Ⅲ　調査の方針と経過

1　調査範囲と基本方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業における道路予定地であり、調査面積は304㎡である。グリッド座標については国家座標（日本測地系第Ⅸ系）X = 44000.000、Y = − 72200.000を基点とする４ｍピッチのものを使用し、経線をX、緯線をYとして北西隅を基点に番付して呼称とした。公共座標は次のとおりである。

測点	日本測地系（第Ⅸ系）	世界測地系（第Ⅸ系　測地成果2011）
X 183、Y 222	X = 43112.000 m、Y = − 71468.000 m	X = 43466.913 m、Y = − 71759.764 m

発掘調査は遺構確認面まで重機（0.45バックホー）にて表土掘削を行い、遺構確認、遺構掘り下げ、遺構精査、測量・写真撮影の手順で実施した。遺構調査については土層の堆積状況を確認するため、土層ベルトを適宜設定した。なお、出土遺物に関しては、床面直上や遺構に伴うと判断したものは№遺物とし、他の覆土中の破片等については一括遺物として取り上げた。

遺構の記録には、図面作成はトータルステーション・電子平板を用いての測量・編集を行い、断面図については一部オルソーフォトに変換して編集を行った。記録写真は35mmモノクロ・リバーサル、デジタルカメラの３種類を用いて撮影し、調査区の全景についてはドローンでの撮影を実施した。

整理作業での出土遺物の計測は、キーエンス社製３Ｄスキャナー（VL-300）による機械計測を行った。誤差１ｍｍの1/1,000という高精度な全点取得が可能で、２次元図化以外の用途にも発展性が見込めるものである。

2　調査経過

令和元年９月４日に調査区設定および器材準備を実施した。５日に重機・プレハブ・器材の搬入を行い、重機による表土掘削を開始した。６日から表土掘削と併行して、遺構確認および遺構掘下げを行った。19日にドローンによる全景撮影を実施し、同日に前橋市教育委員会による検査を受けた。20・21日に埋め戻し作業を行い、24日に撤収作業を完了し、現地での発掘調査を終了した。９月25日より整理作業および報告書作成を実施した。

Ⅳ　基本層序

調査区北西隅で基本層序の確認を行った。表土層（Ⅰ層）および造成土層（Ⅱ層）が30～40cm堆積しており、その直下では総社砂層漸移層（Ⅲ層）が部分的に堆積するが、調査区中央から南側にかけては総社砂層面（Ⅳ層）が広がり、上部は削平を受けいていると考えられる。

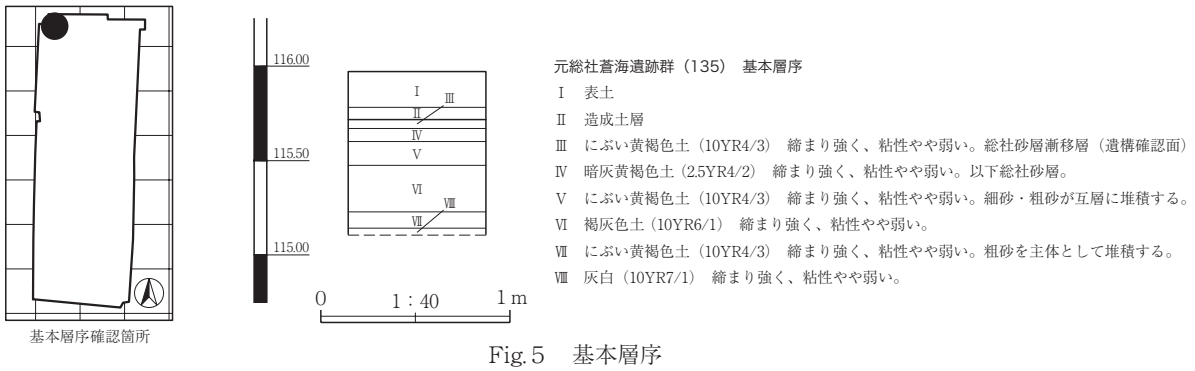


Fig.5　基本層序

Ⅴ　遺構と遺物

1　溝跡

W－1号溝跡（Fig. 7・11、PL. 2）

位置　X 184～185、Y 222～227　**主軸方向**　N－2°－E　**規模**　長さ（20.41）m、上幅（3.43）m、下幅（1.23）m、深さ 1.53 m。　**形状等**　北から南に走行し、検出範囲での断面形状は台形状を呈するが、調査区東端では一段低くなり、さらに東へ向かって下がるものと考えられる。覆土中には若干の As-B 軽石が混入する。　**重複**　W－2・3、Ⅰ－1、P－1～10 と重複し、新旧関係はW－2・3→本遺構→Ⅰ－1であり、10 基のピットは位置関係から柵列痕と考えられ、本遺構と同時期に併存していたものと考えられる。　**出土遺物**　覆土中より須恵器、土師器、陶磁器類、石製品が出土しており、かわらけ（1）、土鍋（2）を図示。　**時期**　規模・形状から蒼海城の堀と考えられ、出土遺物や既往の発掘調査の成果等から 15 世紀後半と想定される。　**備考**　既往の調査である元総社蒼海遺跡群（23）・（47）・（58）・（105）・（124）において検出された、蒼海城本丸西側を南北に走行する堀と同一の遺構である。

W－2号溝跡（Fig. 8・9・11、PL. 2）

位置　X 182～185、Y 227～228　**主軸方向**　N－89°－E　**規模**　長さ（8.73）m、上幅（5.23）m、下幅（2.48）m、深さ 1.60 m。　**形状等**　西から東に走行し、検出範囲での断面形状は台形状を呈するが、南半分が調査区外となるため、詳細は不明である。断面の観察から、大よそ3時期に細分できる。　**重複**　W－1、Ⅰ－5・6と重複し、新旧関係は本遺構→W－1、Ⅰ－5・6である。　**出土遺物**　覆土中より須恵器、土師器、陶磁器類、石製品が出土しており、かわらけ（1）を図示。　**時期**　規模・形状から蒼海城の堀と考えられ、出土遺物や既往の発掘調査の成果等から 15 世紀後半と想定される。

W－3号溝跡（Fig. 8・9・11、PL. 3）

位置　X 182～185、Y 226～227　**主軸方向**　N－89°－E　**規模**　長さ（8.94）m、上幅 3.55 m、下幅 1.76 m、深さ 1.69 m。　**形状等**　西から東に走行し、断面は台形状を呈する。覆土中には土塁を切り崩して埋め戻されたと思われる土層の堆積が認められ、非常に締りが強い。　**重複**　W－1、Ⅰ－6と重複し、新旧関係は本遺構→W－1、Ⅰ－6である。　**出土遺物**　覆土中より須恵器、土師器、陶磁器、かわらけ等が出土しており、かわらけ（1～3）、羽口（4）を図示。　**時期**　規模・形状から蒼海城の堀と考えられ、出土遺物や既往の発掘調査の成果等から 15 世紀後半と想定される。

2　井戸跡

Ⅰ－1号井戸跡（Fig.10・11、PL. 3）

位置　X 184・185、Y 223　**規模**　長軸 1.09 m、短軸 1.08 m、深さ（1.56）m。　**形状等**　平面形状は円形を呈する。　**重複**　W－1と重複し、新旧関係はW－1→本遺構である。　**出土遺物**　欠損面に擦痕が見られる平瓦（1）1点を図示。砥石に転用したと考えられる。　**時期**　出土遺物・重複関係から近世の遺構と思われる。

Ⅰ－2号井戸跡（Fig.10～12、PL. 3）

位置　X 184、Y 223　**規模**　長軸 1.69 m、短軸 1.67 m、深さ（1.13）m。　**形状等**　平面形状は円形を呈する。　**重複**　なし。　**出土遺物**　土師器、かわらけ、石製品等が出土している。かわらけ（1～6）、土鍋（7）、石鉢（8）、石臼（9・10）、石塔の台座と思われる加工痕のある安山岩（11）を図示。　**時期**　出土遺物から中・近世の遺構と思われる。

Ⅰ－3号井戸跡（Fig.10・12、PL. 3）

位置　X 184、Y 224　**規模**　長軸 0.78 m、短軸 0.75 m、深さ（0.93）m。　**形状等**　平面形状は円形を呈する。

重複　なし。　**出土遺物**　土師器、かわらけ、瀬戸・美濃を含む陶磁器片等が出土している。永楽通寶（１）を図示。　**時期**　出土遺物から中・近世の遺構と思われる。

Ｉ－４号井戸跡（Fig.10・12・14、PL. ３）

位置　X 183、Y 222　**規模**　長軸（1.38）m、短軸 1.10 m、深さ（1.31）m。　**形状等**　平面形状は不正形な楕円形を呈する。　**重複**　なし。　**出土遺物**　焙烙（１）、土鍋（２）、板碑（３・４）、宝筐印塔（５）、五輪塔火輪（６）を図示。　**時期**　出土遺物から中・近世の遺構と思われる。

Ｉ－５号井戸跡（Fig. ８・９、PL. ４）

位置　X 183、Y 227　**規模**　長軸 0.89 m、短軸 0.87 m、深さ（0.75）m。　**形状等**　平面形状は円形を呈する。　**重複**　W－２と重複し、本遺構が新しい。　**出土遺物**　須恵器、土師器が出土している。　**時期**　重複関係から近世の遺構と思われる。

Ｉ－６号井戸跡（Fig.10、PL. ４）

位置　X 183、Y 227　**規模**　長軸 0.89 m、短軸 0.77 m、深さ（1.26）m。　**形状等**　平面形状は不正形な楕円形を呈する。　**重複**　W－２・３と重複し、本遺構が新しい。　**出土遺物**　なし。　**時期**　重複関係から近世の遺構と思われる。

３　ピット（Fig.10、Tab. ２、PL. ４～６）

本調査区ではピット 21 基を確認している。Ｐ－１～10 号ピットについてはＷ－１号溝跡の上端際にあり、西側の曲輪を囲う柵列であった可能性が考えられる。

各計測値については「Tab. ２　ピット計測表」を参照のこと。

Tab. ２　ピット計測表

遺構名	グリッド	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	平面形状	重複（古→新）	出土遺物	備考
Ｐ－１	X 184、Y 224	(0.32)	0.32	0.20	隅丸長方形			西側の曲輪に伴う柵列か
Ｐ－２	X 184、Y 225	0.32	0.20	0.14	楕円形	Ｐ－３→Ｐ－２		西側の曲輪に伴う柵列か
Ｐ－３	X 184、Y 225	0.32	(0.18)	0.12	楕円形	Ｐ－３→Ｐ－２		西側の曲輪に伴う柵列か
Ｐ－４	X 184、Y 225	0.45	0.31	0.31	楕円形			西側の曲輪に伴う柵列か
Ｐ－５	X 184、Y 225	0.36	0.35	0.20	円形			西側の曲輪に伴う柵列か
Ｐ－６	X 184、Y 225	(0.37)	0.23	0.05	楕円形	Ｐ－６→Ｐ－５		西側の曲輪に伴う柵列か
Ｐ－７	X 184、Y 225	0.39	0.30	0.21	不整円形	Ｐ－６→Ｐ－５		西側の曲輪に伴う柵列か
Ｐ－８	X 184、Y 226	0.34	0.21	0.14	楕円形			西側の曲輪に伴う柵列か
Ｐ－９	X 184、Y 226	0.29	0.27	0.26	不整形			西側の曲輪に伴う柵列か
Ｐ－10	X 184、Y 226	0.32	0.29	0.30	不整形			西側の曲輪に伴う柵列か
Ｐ－11	X 183、Y 223	0.28	0.25	0.34	円形		土師器甕	
Ｐ－12	X 183、Y 223	0.23	0.21	0.25	円形			
Ｐ－13	X 183、Y 223	0.18	0.17	0.18	方形			
Ｐ－14	X 183、Y 223	0.24	0.19	0.10	楕円形			
Ｐ－15	X 183、Y 223	0.24	0.19	0.10	楕円形			
Ｐ－16	X 183、Y 224	0.27	0.21	0.34	隅丸長方形			
Ｐ－17	X 183、Y 224	0.33	0.23	0.24	長方形			
Ｐ－18	X 183、Y 224	0.34	0.28	0.36	楕円形			
Ｐ－19	X 183、Y 224	0.23	0.22	0.07	方形			
Ｐ－20	X 183、Y 225	0.26	0.25	0.28	方形			
Ｐ－21	X 184、Y 223	0.17	0.16	0.16	方形			

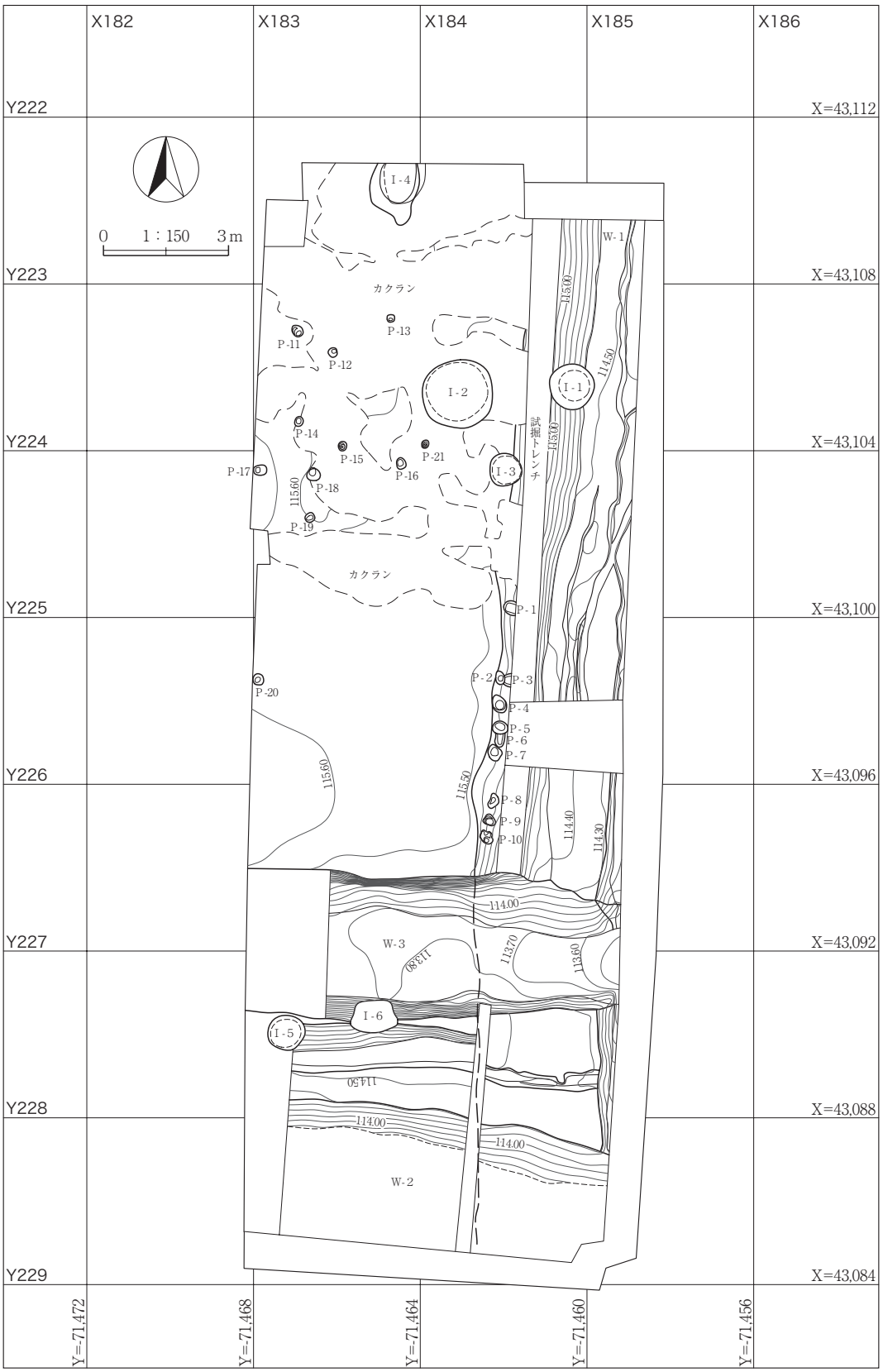
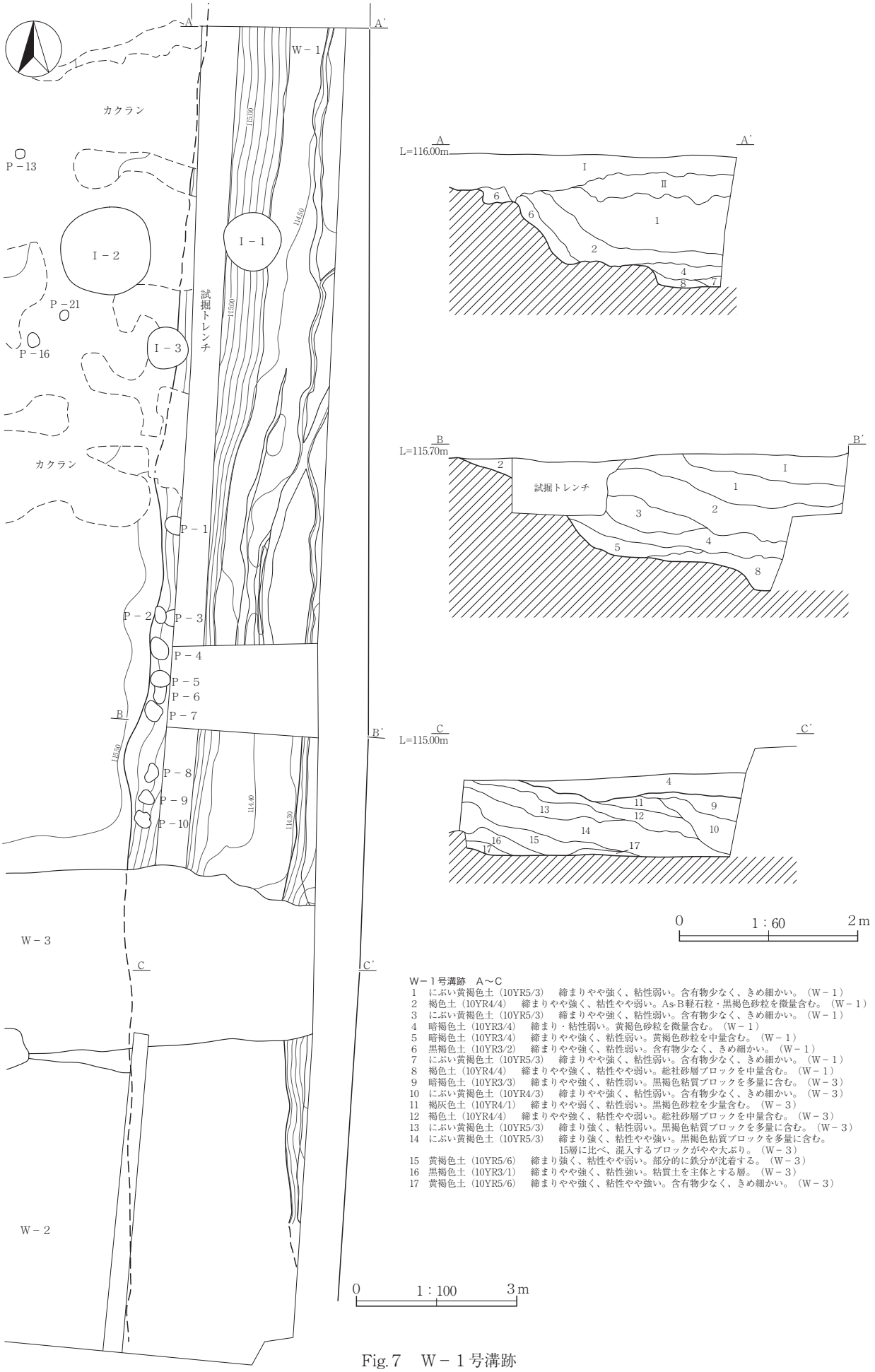


Fig. 6　元総社蒼海遺跡群（135）全体図



W－１号溝跡　A～C

1　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まりやや強く、粘性弱い。含有物少なく、きめ細かい。（W－１）
2　褐色土（10YR4/4）　締まりやや強く、粘性やや弱い。As-B軽石粒・黒褐色砂粒を微量含む。（W－１）
3　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まりやや強く、粘性弱い。含有物少なく、きめ細かい。（W－１）
4　暗褐色土（10YR3/4）　締まり・粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。（W－１）
5　暗褐色土（10YR3/4）　締まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を中量含む。（W－１）
6　黒褐色土（10YR3/2）　締まりやや強く、粘性弱い。含有物少なく、きめ細かい。（W－１）
7　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まりやや強く、粘性弱い。含有物少なく、きめ細かい。（W－１）
8　褐色土（10YR4/4）　締まりやや強く、粘性やや弱い。総社砂層ブロックを中量含む。（W－１）
9　暗褐色土（10YR3/3）　締まりやや強く、粘性弱い。黒褐色粘質ブロックを多量に含む。（W－３）
10　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まりやや強く、粘性弱い。含有物少なく、きめ細かい。（W－３）
11　褐灰色土（10YR4/1）　締まりやや弱く、粘性弱い。黒褐色砂粒を少量含む。（W－３）
12　褐色土（10YR4/4）　締まりやや強く、粘性やや弱い。総社砂層ブロックを中量含む。（W－３）
13　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まり強く、粘性弱い。黒褐色粘質ブロックを多量に含む。（W－３）
14　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まり強く、粘性やや強い。黒褐色粘質ブロックを多量に含む。
15層に比べ、混入するブロックがやや大ぶり。（W－３）
15　黄褐色土（10YR5/6）　締まり強く、粘性やや弱い。部分的に鉄分が沈着する。（W－３）
16　黒褐色土（10YR3/1）　締まりやや強く、粘性強い。粘質土を主体とする層。（W－３）
17　黄褐色土（10YR5/6）　締まりやや強く、粘性やや強い。含有物少なく、きめ細かい。（W－３）

Fig.7　W－１号溝跡

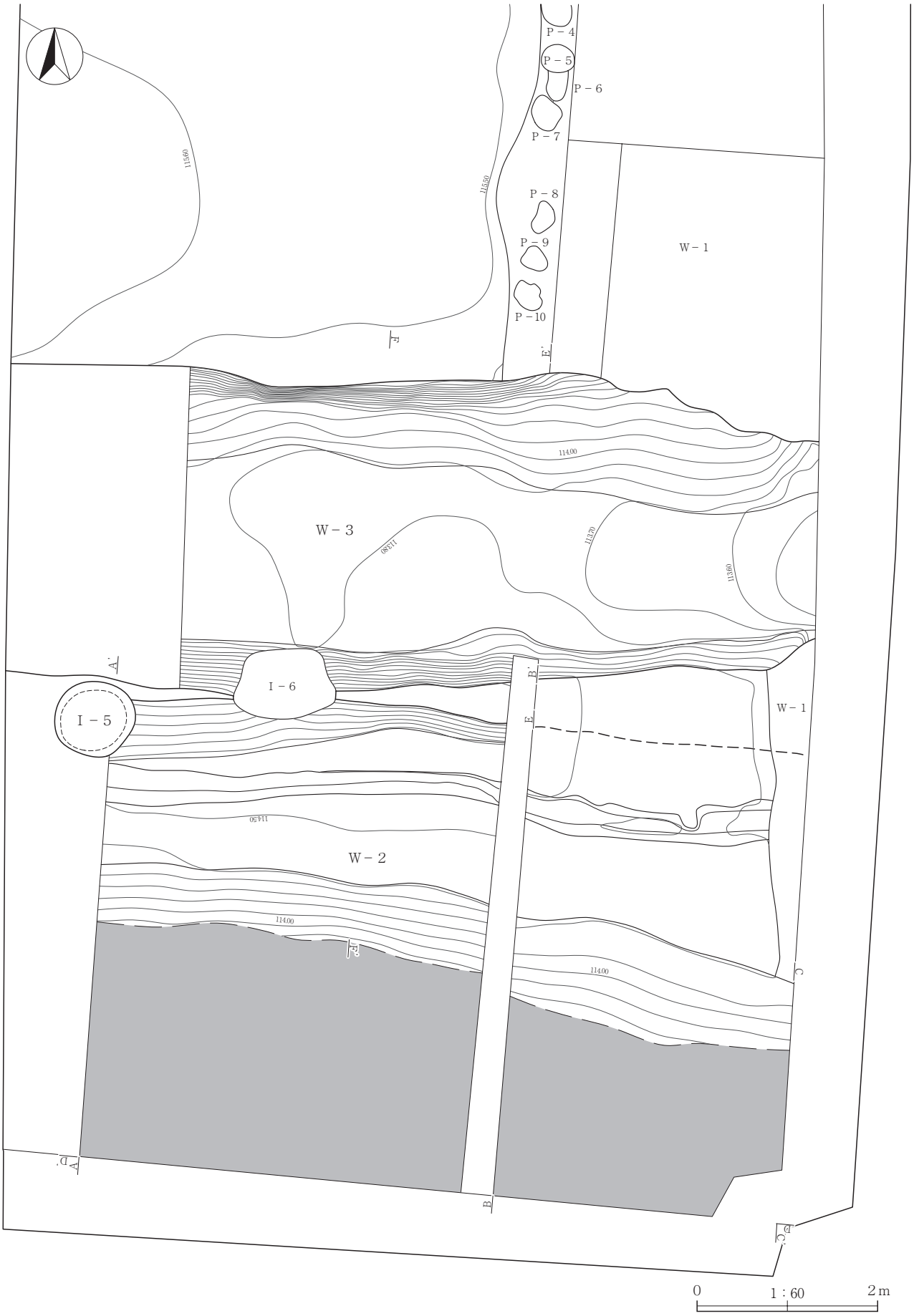
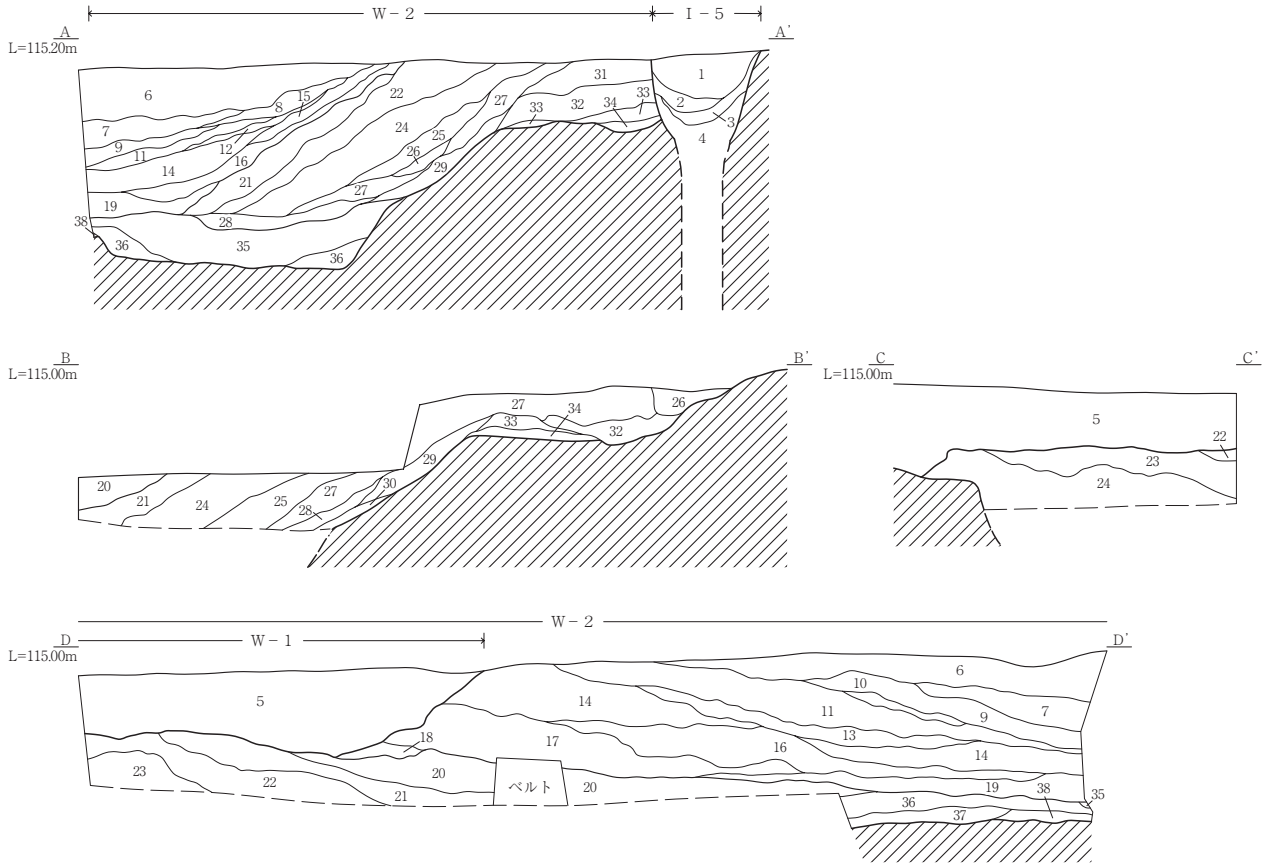
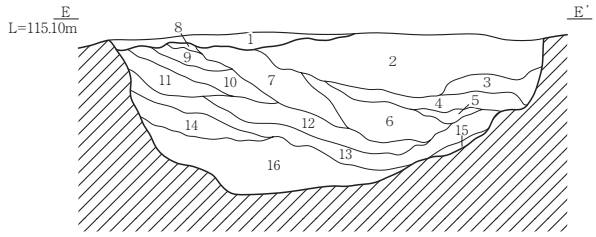


Fig.9　W－２・３号溝跡、I－５号井戸跡（１）



W－２号溝跡、Ｉ－５号溝跡　Ａ～Ｄ

1　褐灰色土（10YR4/1）　締まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂質ブロックを少量含む。（Ｉ－５）
2　褐灰色土（10YR4/1）　締まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂質ブロックを中量含む。（Ｉ－５）
3　黒褐色土（10YR3/1）　締まり・粘性弱い。黄褐色砂粒を少量含む。（Ｉ－５）
4　黒褐色土（10YR3/1）　締まり・粘性弱い。黄褐色砂粒を中量含む。（Ｉ－５）
5　暗褐色土（10YR3/4）　締まり・粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。（Ｗ－１）
6　褐灰色土（10YR4/1）　締まり強く、粘性弱い。黄褐色砂粒、黒褐色粘質ブロックを中量含む。（Ｗ－２）
7　暗褐色土（10YR3/4）　締まりやや強く、粘性弱い。含有物少なく、きめ細かい。（Ｗ－２）
8　灰黄褐色土（10YR4/2）　締まりやや強く、粘性やや弱い。黄褐色砂粒を微量含む。（Ｗ－２）
9　暗褐色土（10YR3/3）　締まり・粘性やや弱い。黄褐色砂粒を微量含む。（Ｗ－２）
10　暗褐色土（10YR3/4）　締まり・粘性弱やや弱い。黄褐色砂粒を微量含む。（Ｗ－２）
11　灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性やや弱い。黄褐色粒を少量含む。（Ｗ－２）
12　黒褐色色土（10YR3/2）　締まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。（Ｗ－２）
13　暗褐色土（10YR3/4）　締まりやや強く、粘性弱い。含有物少なく、きめ細かい。（Ｗ－２）
14　黒褐色色土（10YR3/2）　締まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。（Ｗ－２）
15　灰黄褐色土（10YR4/3）　締まり・粘性弱い。含有物少なく、きめ細かい。（Ｗ－２）
16　灰黄褐色土（10YR4/3）　締まり・粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。（Ｗ－２）
17　黒褐色色土（10YR3/2）　締まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。（Ｗ－２）
18　褐灰色土（10YR4/1）　締まり・粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。（Ｗ－２）
19　褐灰色土（10YR4/1）　締まり・粘性やや強い。黄褐色砂粒を微量含む。（Ｗ－２）
20　黒褐色土（10YR2/2）　締まり・粘性弱やや強い。黄褐色粒を少量含む。（Ｗ－２）
21　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締まりやや強く、粘性やや強い。黄褐色粘質土主体の層。（Ｗ－２）
22　黒色土（10YR2/1）　締まりやや強く、粘性やや強い。黄褐色砂粒を少量含む。（Ｗ－２）
23　褐灰色土（10YR4/1）　締まり・粘性やや弱い。含有物少なく、きめ細かい。（Ｗ－２）
24　暗褐色土（10YR3/4）　締まり強く、粘性弱い。黒色粘質ブロックを多量に含む。（Ｗ－２）
25　暗褐色土（10YR3/4）　締まりやや強く、粘性弱い。含有物少なく、きめ細かい。（Ｗ－２）
26　暗褐色土（10YR3/3）　締まり強く、粘性弱い。黄褐色砂質ブロックを多量に含む。（Ｗ－２）
27　褐色土（10YR4/4）　締まり強く、粘性弱い。黄褐色砂粒を少量含む。（Ｗ－２）
28　黄褐色土（10YR5/6）　締まりやや強く、粘性やや強い。黄褐色粘質土を主体とする層。（Ｗ－２）
29　褐灰色土（10YR4/1）　締まりやや強く・粘性強い。粘質土による堆積土層。（Ｗ－２）
30　暗褐色土（10YR3/4）　締まりやや強く、粘性やや弱い。黄褐色砂粒を少量含む。（Ｗ－２）
31　褐灰色土（10YR5/1）　締まり・粘性強い。黄褐色粒を少量含む。（Ｗ－２）
32　暗褐色土（10YR3/3）　締まりやや強く、粘性弱い。含有物少なく、きめ細かい。（Ｗ－２）
33　褐灰色土（10YR4/1）　締まり・粘性強い。粘質土による堆積土層。（Ｗ－２）
34　灰黄褐色土（10YR6/2）　締まり・粘性やや弱い。黄褐色砂粒を中量含む。（Ｗ－２）
35　黒褐色土（10YR3/1）　締まり強く、粘性強い。粘質土による堆積土層。
36　褐灰色土（10YR4/1）　締まり・粘性強い。粘質土による堆積土層。（Ｗ－２）
37　黒褐色土（10YR3/1）　締まり強く、粘性強い。黄褐色粒を少量含む。（Ｗ－２）
38　暗褐色土（10YR3/3）　締まり・粘性強い。粘質土による堆積土層。（Ｗ－２）



W－３号溝跡　E

1　暗褐色土（10YR3/4）　締まり・粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。（Ｗ－１）
2　黒褐色土（10YR3/1）　締まりやや強く、粘性強い。粘質ブロックを主体とする層。（Ｗ－３）
3　灰白色土（10YR8/2）　締まりやや強く、粘性弱い。黒褐色粘質ブロックを少量含む。（Ｗ－３）
4　褐灰色土（10YR4/1）　締まりやや強く、粘性やや弱い。黄褐色砂粒を微量含む。（Ｗ－３）
5　灰黄褐色土（10YR5/2）　締まりやや、粘性弱い。黒褐色砂粒を少量含む。（Ｗ－３）
6　黒褐色土（10YR3/2）　締まりやや強く、粘性強い。黒褐色粘質ブロックを少量含む。（Ｗ－３）
7　暗褐色土（10YR3/4）　締まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂質ブロックを中量含む。（Ｗ－３）
8　黒褐色土（10YR3/1）　締まり・粘性やや弱い。含有物少なく、きめ細かい。（Ｗ－３）
9　褐灰色土（10YR4/1）　締まり・粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。（Ｗ－３）
10　褐灰色土（10YR4/1）　締まり・粘性弱い。黒褐色粘質ブロックを中量含む。（Ｗ－３）
11　灰黄褐色土（10YR5/2）　締まりやや、粘性弱い。黒褐色砂粒を少量含む。（Ｗ－３）
12　暗褐色土（10YR3/3）　締まりやや強く、粘性やや弱い。黄褐色砂質ブロックを中量含む。（Ｗ－３）
13　黒褐色土（10YR3/2）　締まりやや強く、粘性強い。黒褐色粘質ブロックを中量含む。（Ｗ－３）
14　灰黄褐色土（10YR4/2）　締まりやや強く、粘性やや弱い。黒褐色砂粒を少量含む。（Ｗ－３）
15　灰白色土（10YR8/2）　締まり・粘性弱い。含有物少なく、きめ細かい。（Ｗ－３）
16　暗褐色土（10YR3/4）　締まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂質ブロックを中量含む。（Ｗ－３）

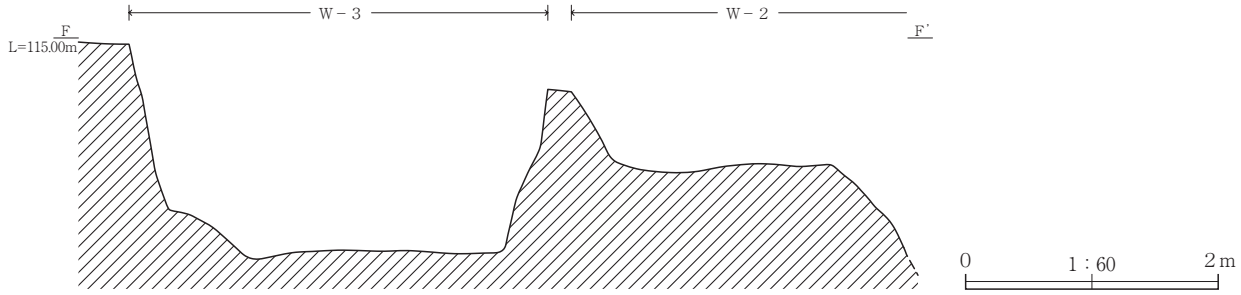
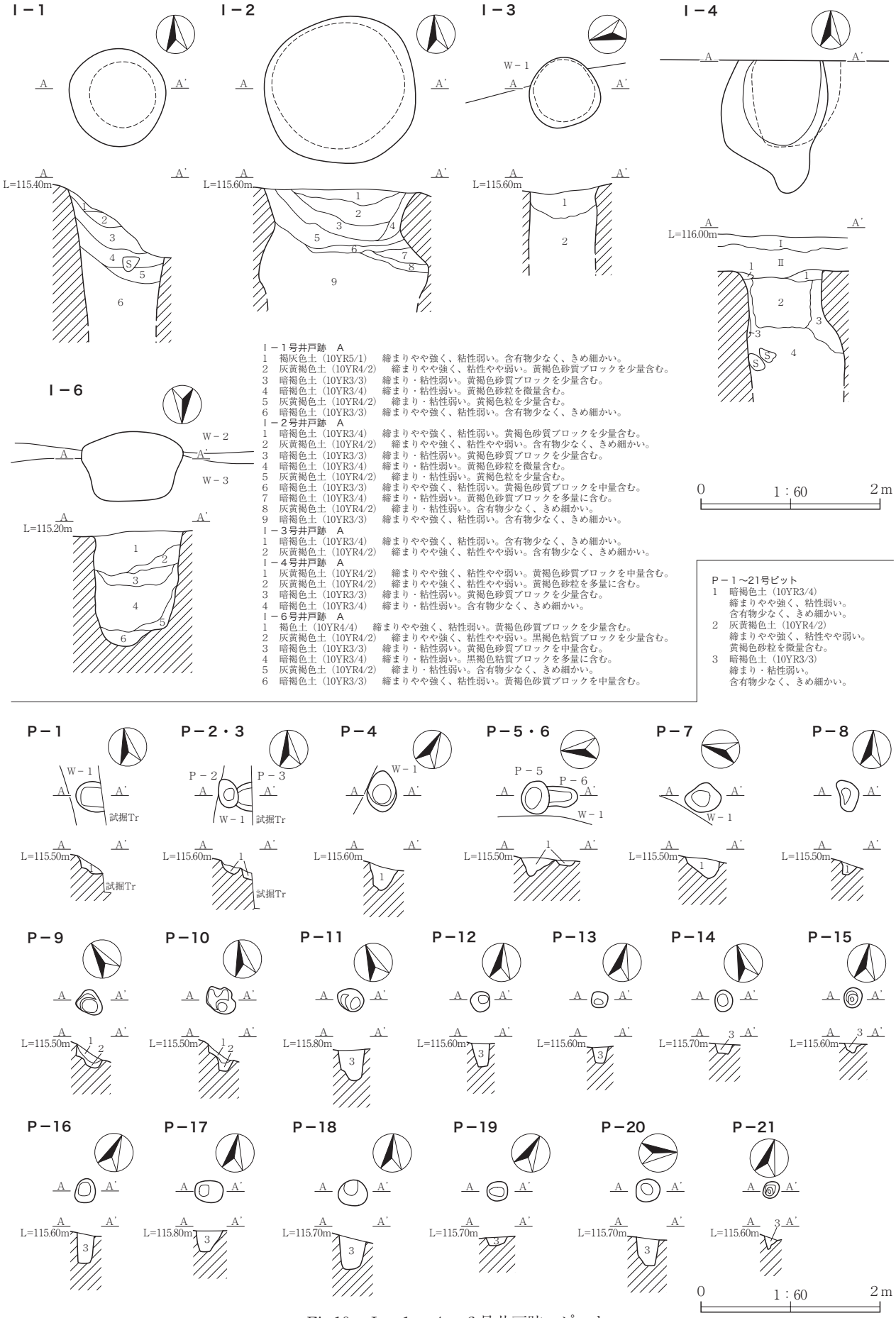


Fig.9　Ｗ－２・３号溝跡、Ｉ－５号井戸跡（２）



Ⅰ－１号井戸跡　A
1　褐灰色土（10YR5/1）　締まりやや強く、粘性弱い。含有物少なく、きめ細かい。
2　灰黄褐色土（10YR4/2）　締まりやや強く、粘性やや弱い。黄褐色砂質ブロックを少量含む。
3　暗褐色土（10YR3/3）　締まり・粘性弱い。黄褐色砂質ブロックを少量含む。
4　暗褐色土（10YR3/4）　締まり・粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。
5　灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性弱い。黄褐色粒を少量含む。
6　暗褐色土（10YR3/3）　締まりやや強く、粘性弱い。含有物少なく、きめ細かい。

Ⅰ－２号井戸跡　A
1　暗褐色土（10YR3/4）　締まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂質ブロックを少量含む。
2　灰黄褐色土（10YR4/2）　締まりやや強く、粘性やや弱い。含有物少なく、きめ細かい。
3　暗褐色土（10YR3/3）　締まり・粘性弱い。黄褐色砂質ブロックを少量含む。
4　暗褐色土（10YR3/4）　締まり・粘性弱い。黄褐色砂粒を微量含む。
5　灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性弱い。黄褐色粒を少量含む。
6　暗褐色土（10YR3/3）　締まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂質ブロックを中量含む。
7　暗褐色土（10YR3/4）　締まり・粘性弱い。黄褐色砂質ブロックを多量に含む。
8　灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性弱い。含有物少なく、きめ細かい。
9　暗褐色土（10YR3/3）　締まりやや強く、粘性弱い。含有物少なく、きめ細かい。

Ⅰ－３号井戸跡　A
1　暗褐色土（10YR3/4）　締まりやや強く、粘性弱い。含有物少なく、きめ細かい。
2　灰黄褐色土（10YR4/2）　締まりやや強く、粘性やや弱い。含有物少なく、きめ細かい。

Ⅰ－４号井戸跡　A
1　灰黄褐色土（10YR4/2）　締まりやや強く、粘性やや弱い。黄褐色砂質ブロックを中量含む。
2　灰黄褐色土（10YR4/2）　締まりやや強く、粘性やや弱い。黄褐色砂粒を多量に含む。
3　暗褐色土（10YR3/3）　締まり・粘性弱い。黄褐色砂質ブロックを少量含む。
4　暗褐色土（10YR3/4）　締まり・粘性弱い。含有物少なく、きめ細かい。

Ⅰ－６号井戸跡　A
1　褐色土（10YR4/4）　締まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂質ブロックを少量含む。
2　灰黄褐色土（10YR4/2）　締まりやや強く、粘性やや弱い。黒褐色粘質ブロックを少量含む。
3　暗褐色土（10YR3/3）　締まり・粘性弱い。黄褐色砂質ブロックを中量含む。
4　暗褐色土（10YR3/4）　締まり・粘性弱い。黒褐色粘質ブロックを多量に含む。
5　灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性弱い。含有物少なく、きめ細かい。
6　暗褐色土（10YR3/3）　締まりやや強く、粘性弱い。黄褐色砂質ブロックを中量含む。

Ｐ－１～21号ピット
1　暗褐色土（10YR3/4）
　締まりやや強く、粘性弱い。
　含有物少なく、きめ細かい。
2　灰黄褐色土（10YR4/2）
　締まりやや強く、粘性やや弱い。
　黄褐色砂粒を微量含む。
3　暗褐色土（10YR3/3）
　締まり・粘性弱い。
　含有物少なく、きめ細かい。

Fig.10　Ⅰ－１～４・６号井戸跡、ピット

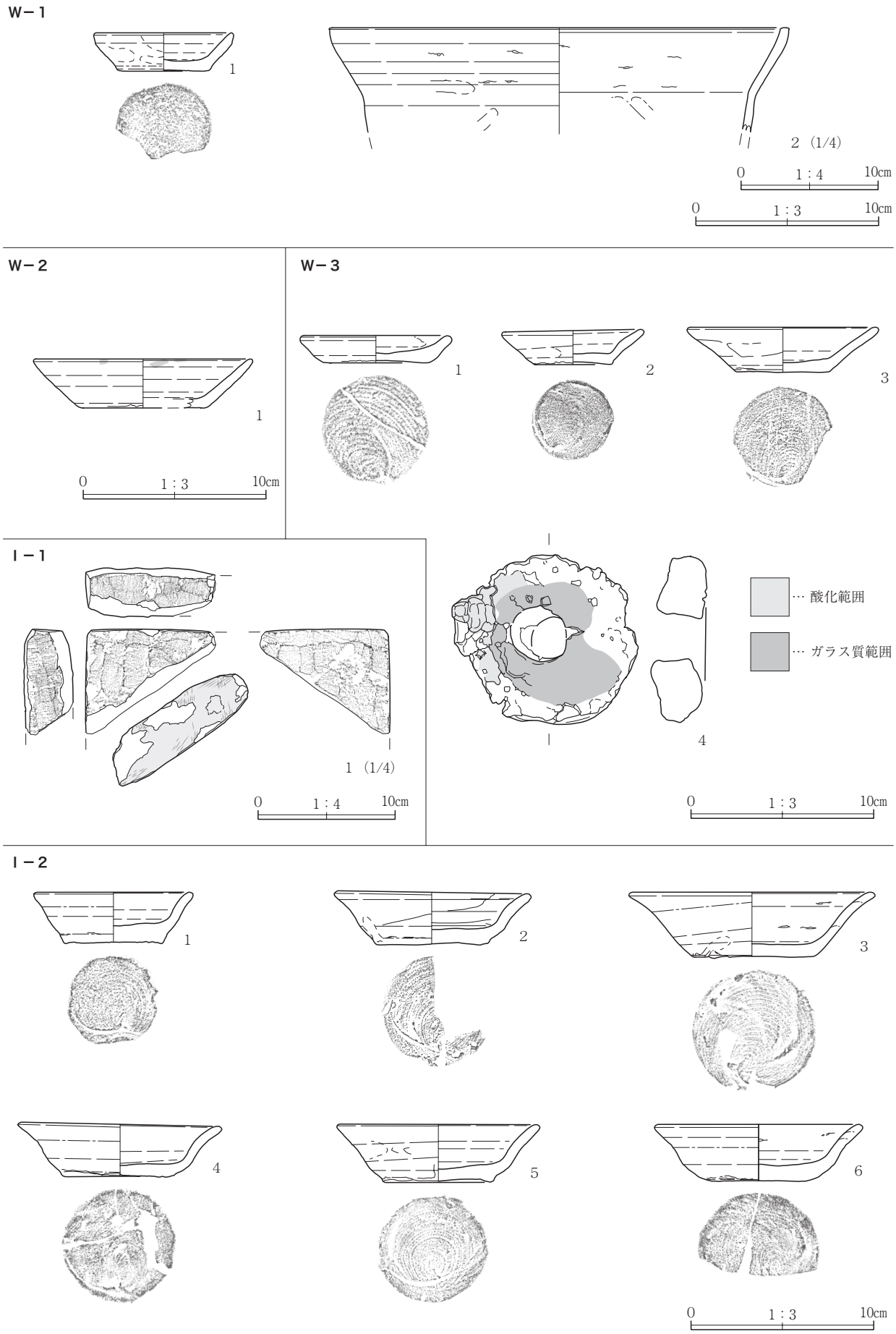
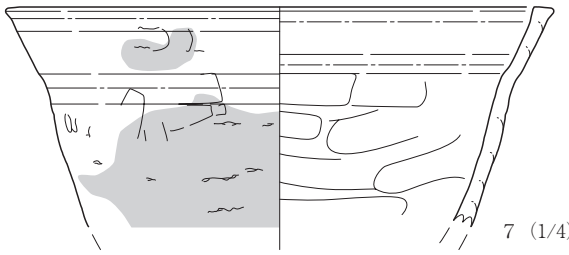
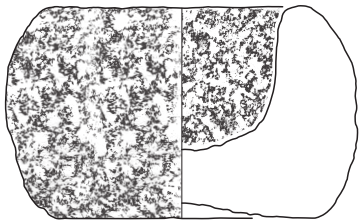

W－1
1
2（1/4）
0 1：4 10cm
0 1：3 10cm
W－2
1
0 1：3 10cm
W－3
1
2
3
I－1
1（1/4）
0 1：4 10cm
4
… 酸化範囲
… ガラス質範囲
0 1：3 10cm
I－2
1
2
3
4
5
6
0 1：3 10cm

Fig.11　出土遺物（1）

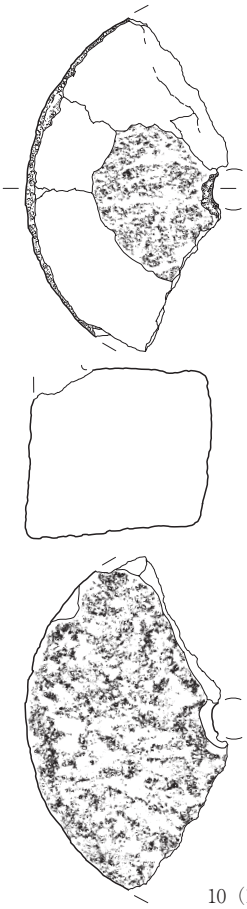
Ⅰ－2



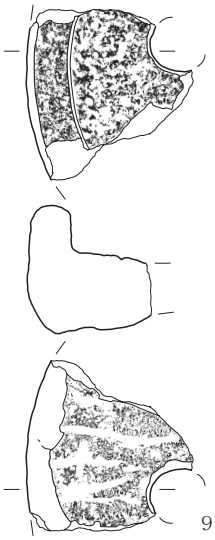
7（1/4）



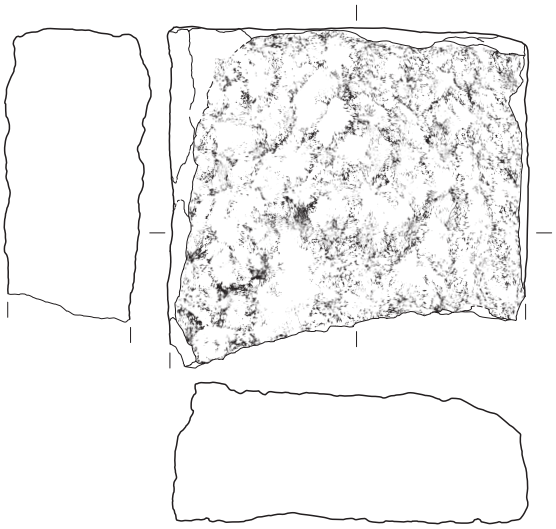
8（1/4）



10（1/6）



9（1/6）



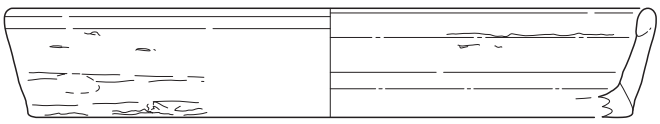
11（1/6）

Ⅰ－3

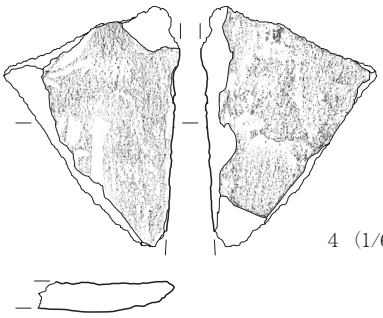
1（1/1）

0　1：1　2cm

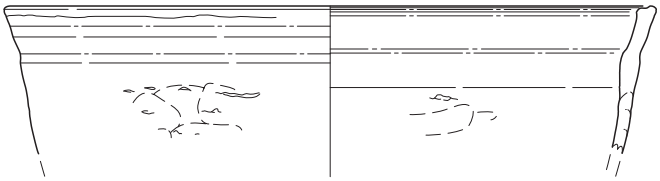
Ⅰ－4



1（1/4）



4（1/6）



2（1/4）

0　1：4　10cm

0　1：6　20cm

Fig.12　出土遺物（２）

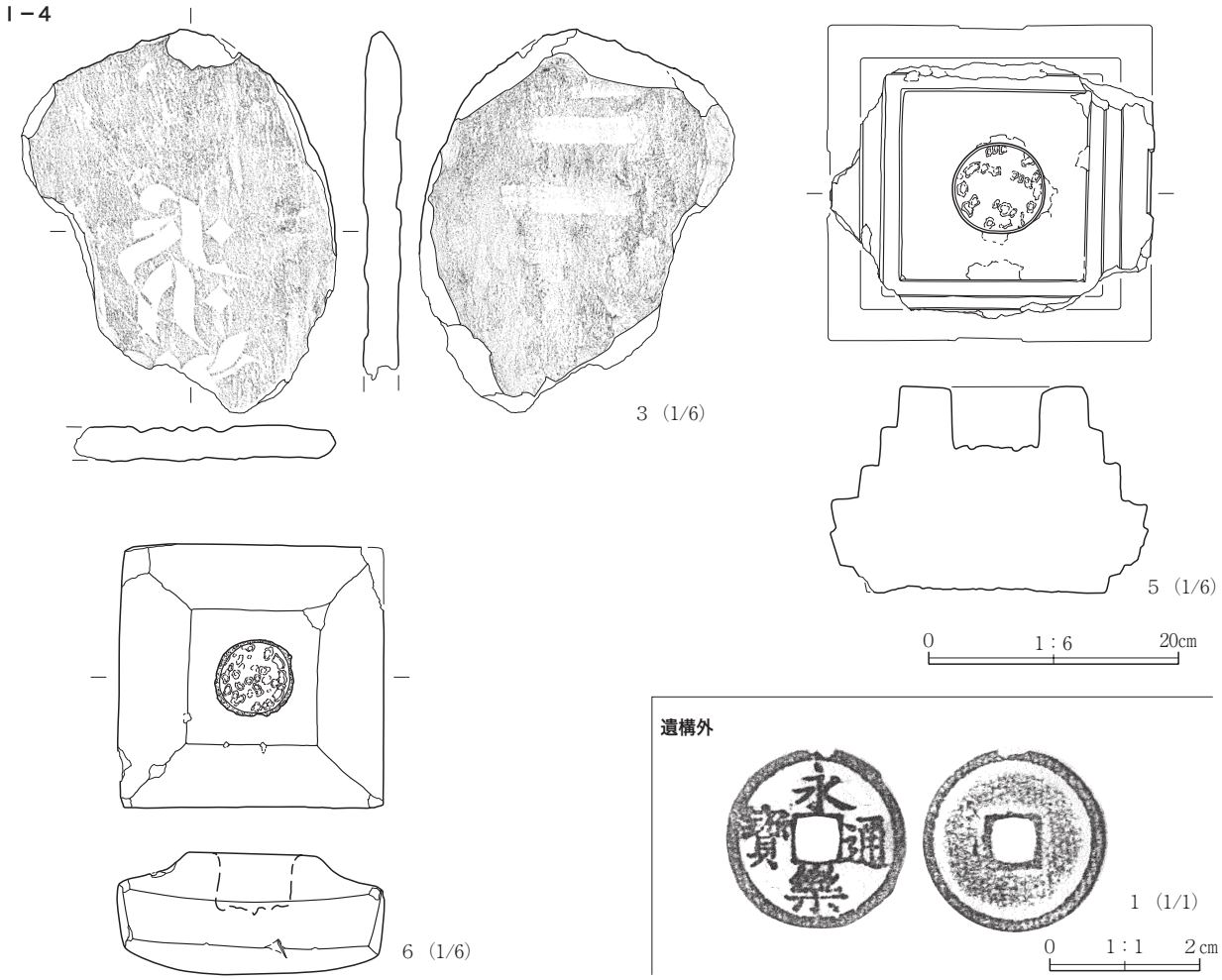


Fig.13　出土遺物（3）

Tab. 3　出土遺物観察表

Ｗ－１

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	かわらけ	〔7.6〕	〔5.2〕	(2.1)	白色粒、石英	良好	にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。	1/4 残存。
2	覆土	土鍋	〔33.5〕	―	(7.8)	赤色粒、雲母	良好	黒	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。 内面ヨコナデ、ナデ成形。	口縁部片。

Ｗ－２

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	かわらけ	〔6.0〕	〔3.5〕	(2.7)	白色粒	良好	にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。	1/8 残存。

Ｗ－３

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	かわらけ	8.4	6.0	1.5	白色粒、石英	良好	明黄褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。	1/2 残存。
2	覆土	かわらけ	8.0	4.4	1.9	白色粒、石英	良好	橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。	ほぼ完存。
3	覆土	かわらけ	〔10.5〕	〔5.2〕	2.5	白色粒	良好	褐灰 にぶい褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。	1/2 残存。
No	出土位置	種別、器種	口径	長さ	孔径	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
4	覆土	羽口	10.1	4.4	2.6	砂粒、小石	外面 酸化焔	橙、褐灰 灰白	手捏ね成形。円筒形を呈する。 送風口周辺（中央部）にガラス化範囲が顕著。	送風口残存。重量 202.5g。

Ⅰ－１

No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	瓦　平瓦	7.6	―	―	白・黒色粒	硬質	灰 灰白	表裏面には丁寧なユビナデ調整痕が顕著。上・左側面はヘラケズリおよびユビナデによる平坦加工が施されている。欠損面は磨耗により滑らかで、再利用の痕跡か。	角部片。重さ 260.5g。

Ⅰ－２

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	かわらけ	〔8.5〕	〔4.8〕	2.8	赤色粒、石英	良好	浅黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。	1/4 残存。

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
2	覆土	かわらけ	〔10.8〕	〔6.0〕	2.8	白・赤色粒	良好	にぶい橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。	1/2 残存。
3	覆土	かわらけ	〔13.4〕	〔7.0〕	3.6	石英、雲母	良好	橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。	1/2 残存。
4	覆土	かわらけ	〔11.1〕	〔3.0〕	3.0	白色粒、石英	良好	浅黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。	1/2 残存。
5	覆土	かわらけ	〔11.2〕	6.0	3.2	白色粒	良好	浅黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。	ほぼ完存。
6	覆土	かわらけ	〔11.4〕	〔6.6〕	3.2	白色粒	良好	にぶい橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。	1/2 残存。
7	覆土	土鍋	〔29.0〕	—	11.7	白・黒色粒	良好	黒褐 赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。 内面ヨコナデ、ナデ成形。	口縁～胴部上位片。

No	出土位置	種別、器種	直径	底径	高さ	石質	焼成	色調	重量（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
8	覆土	石製品　石鉢	13.4	13.7	11.2	玄武岩	—	—	3534.0	緩やかな丸味を持つ外面及び内面には丁寧な研磨加工が施され、鑿痕を滑らかに整えている。底部は凹面を呈する。	ほぼ完形。
9	覆土	石製品　穀物臼	〔33.0〕	—	10.3	玄武岩	—	—	1456.0	上臼。挽き目明瞭。	1/6 残存。
10	覆土	石製品　穀物臼	〔32.0〕	—	13.6	玄武岩	—	—	4992.0	下臼。下面挽き目磨耗。	1/3 残存。

No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	高さ	石質	焼成	色調	重量（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
11	覆土	石製品　石塔か	(27.1)	28.6	11.6	角閃石安山岩	—	—	1050.0	表裏面、左右及び上側面は平坦加工が施され、表面右側縁のみ角をとる斜面加工が施されている。表面中央付近に煤による変色あり。	台座か。下半部欠損。

Ⅰ－３

No	出土位置	銭種名	初鋳年代	材質	外径	穿径	厚さ	重量	残存状況・備考
1	覆土	永楽通寶	永楽９年（1411 年）	銅	24.18mm	5.89mm	1.38mm	1.7	3/4 残存。

Ⅰ－４

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	焙烙	〔34.5〕	〔32.0〕	(5.8)	白色粒、雲母	良好	黒褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。	口縁部片。
2	覆土	土鍋	〔34.5〕	—	(7.9)	赤色粒、石英	良好	にぶい褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ成形。 内面ヨコナデ、ナデ成形。	口縁部片。

No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
3	覆土	石製品　板碑	(40.0)	(24.1)	3.0	緑泥片岩	—	—	3366.0	表：主尊種子キリーク（阿弥陀如来）、蓮座有り。 裏：横ノミ痕。	上半部片。
4	覆土	石製品　板碑	(19.1)	(13.8)	2.5	緑泥片岩	—	—	760.0	表：主尊種子サ（観音菩薩）。 裏：特になし。	破片。
5	覆土	石製品 宝篋印塔	(20.6)	26.0	16.7	角閃石安山岩	—	—	8473.0	四隅の隅飾りを欠損する。	笠 2/3 残存。
6	覆土	石製品　五輪塔	21.1	21.2	9.9	玄武岩	—	—	4078.0	枘穴に加工痕明瞭。	火輪部。一部欠損。

遺構外

No	出土位置	銭種名	初鋳年代	材質	外径	穿径	厚さ	重量（g）	残存状況・備考
1	覆土	永楽通寶	永楽９年（1411 年）	銅	24.69mm	5.85mm	1.15mm	2.0	ほぼ完存。

Ⅵ　まとめ

今回の発掘調査では溝跡３条、井戸跡６基、ピット 21 基を検出した。このうち３条の溝跡については規模・形状や検出位置から蒼海城の堀跡であり、周辺での発掘調査でも確認されている遺構である。以下、この蒼海城の堀跡について既往の発掘調査を交え、本調査での成果を概観する。

蒼海城は永享元年（1429 年）に築城された城郭である。築城した総社長尾氏が在城時のものと考えられる「蒼海城絵図」や山崎一の作成した縄張図（1978）等から照らし合わせると、本調査区は蒼海城本丸の南西、二の丸西部にあたり「松井屋敷」とされる郭に該当する（Fig.14）。

本調査区のＷ－１号溝跡は調査区中央から東端にかけて検出しており南北方向に走行、本丸・二の丸と松井屋敷の間を走る堀にあたる。底部の中心と東側の立ち上がりは調査区外のため確認に至っていないため断面形状は不明であるが、検出範囲では台形状を呈し調査区東端では一段低くなり、さらに東へ向かって下がるものと考えられる。この遺構は、本調査区の北側に位置する元総社蒼海遺跡群（23）25・26 地点１トレンチ、元総社蒼海遺跡群（36）５区のＷ－２号溝跡、元総社蒼海遺跡群（124）のＷ－３号溝で確認されている遺構と同

一になる。また、南側では元総社蒼海遺跡群（47）W－２号溝跡、元総社蒼海遺跡群（105）W－１号溝跡も南北方向を指向しており、位置関係から同一の遺構といえる。

また、調査区南側で検出した東西方向のW－２・３号溝跡は松井屋敷南側を巡る堀である。W－２号溝跡は調査区南端にありW－１号溝跡と直交する。南壁の断面観察から、本遺構が先行することが分かっている。また、西壁の断面観察から、３時期に大別することができる。新段階のA期は含有物の少ない暗褐色砂質土で埋没しており、検出範囲での断面形状は台形を呈する。中段階は断面形状台形ないし箱形となり、総社砂層ブロックを主体として埋没し、堆積状況から堀の北側から埋め戻されたものと推察される。なお北側にテラス状の段を設けており、立ち上がり際に小規模な溝状の掘り込みが確認できる。本調査で確認できる範囲では最大の幅を持つ段階となる。古段階のC期はグライ化した粘土層の堆積が見られ、湛水の痕跡であると考えられる。この埋没・掘り返しの様子は元総社蒼海遺跡群（124）のW－３号溝でも確認されている（前橋市教育委員会 2017）。ここではA～D期の４時期に細分されており[(1)]、報告書の記述内容からは特にB～D期の埋没過程で類似点があり、松井屋敷を囲う堀の共通した変遷過程を示していると思われる。

Fig.14　元総社蒼海遺跡群（135）周辺蒼海城想定図

このW－２号溝跡の北側を東西に走行するのがW－３号溝跡であり、土塁を切り崩して埋め戻されたと思われ、多量の総社砂層ブロックと黒褐色粘質ブロックを含む土層が堆積しており、非常に締りが強い。W－１号溝跡と直交し、本遺構が先行する。

３条の堀間での前後関係について、調査の限りではW－１号溝跡が最も後出するものであるが、堀の中心部や最下面を確認できていない。また、同一遺構と思われる元総社蒼海遺跡群（47）W－１号溝跡は近世のA期、蒼海城段階のB期に大別されており、本調査区でのW－１号溝跡はこのA期に当たる可能性も考えられ、蒼海城段階では前後関係が逆転することも想定される。W－２・３号溝跡の前後関係については本調査区内での交点がないため不明とせざるを得ないが、両遺構間は最大で 42cm、最小で 10cm 程度と堀の間隔としては極めて狭く、位置関係から併存していた可能性は低いと判断される。調査時での所感として、また両遺構の断面観察から推察するにW－２号溝跡D期が最古段階で、これが埋められたあとW－３号溝跡、その後にW－２号溝跡A・B期への変遷が追えるように思われるが、いずれにしても推察の域を出ず今後の調査成果を待ちたい。

なお、本調査区北側にある御霊神社近辺に流れを発する「おくらかわ、おくらっぽり」と呼ばれる小川があり[(2)]、今回検出したW－２・３号溝跡は位置関係から、この小川の一部にあたるもので、蒼海城の地割として利用されたものと考えられる。

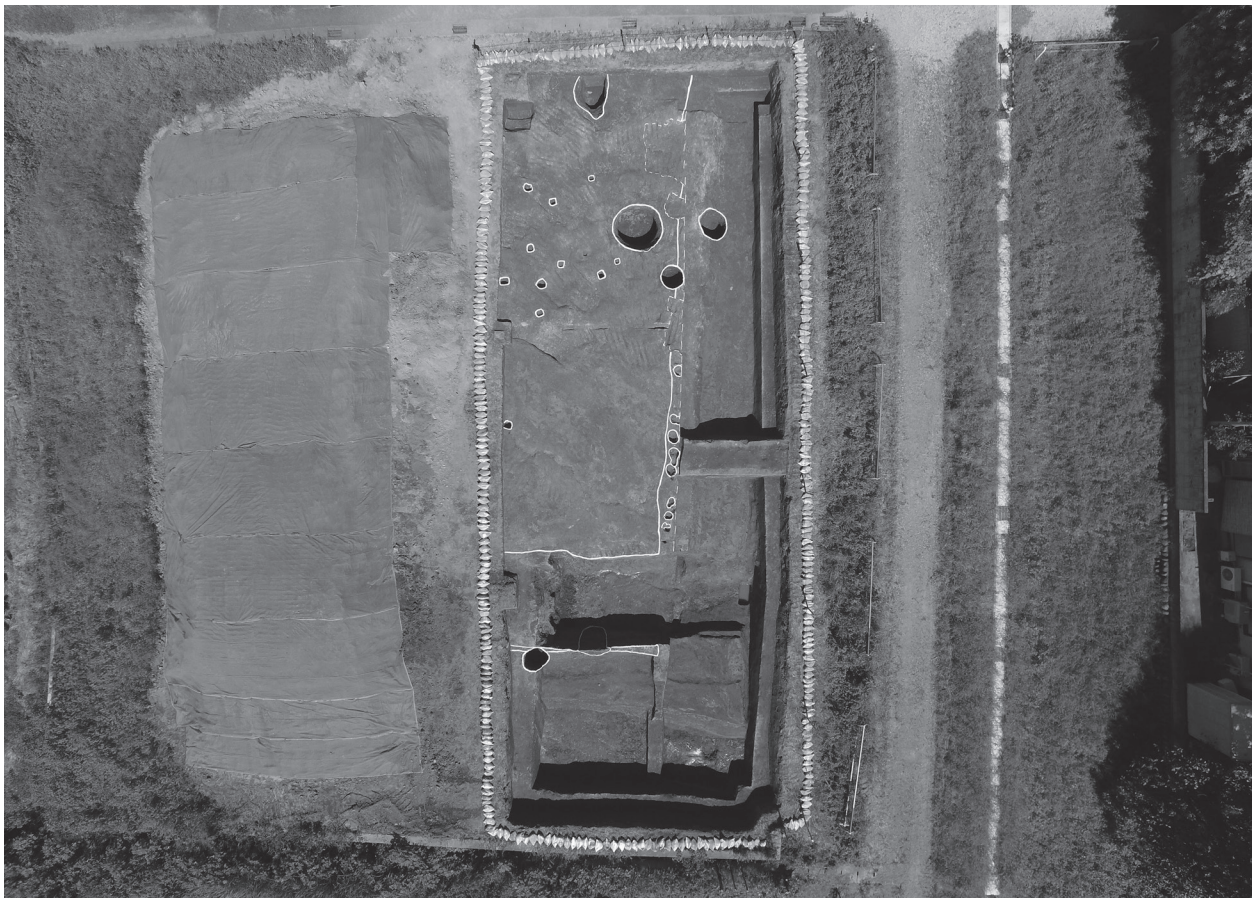
註

（1）報告書では４時期（大きくは２時期、新段階：A～C期、古段階：D期）を設定している。本調査区ではB～D期に共通するものと思われる。なお、A期を 16 世紀以降、B期を 15 世紀後半以降、C期を 15 世紀半ば以降、D期を永享元年（1429 年）に惣社長尾景行が築城した時期と推定されている。

（2）中村（2018）によると、この「おくら川」は台地の地下を、埋没谷に沿って伏流した水が御霊神社近辺で湧水し小川ができ、南方は現在の五千石堰用水に合流して染谷川に注ぐものとされている。本調査区南にも現在のコンクリートによる用水が走っており、今でもその流れを確認することができる。

写 真 図 版

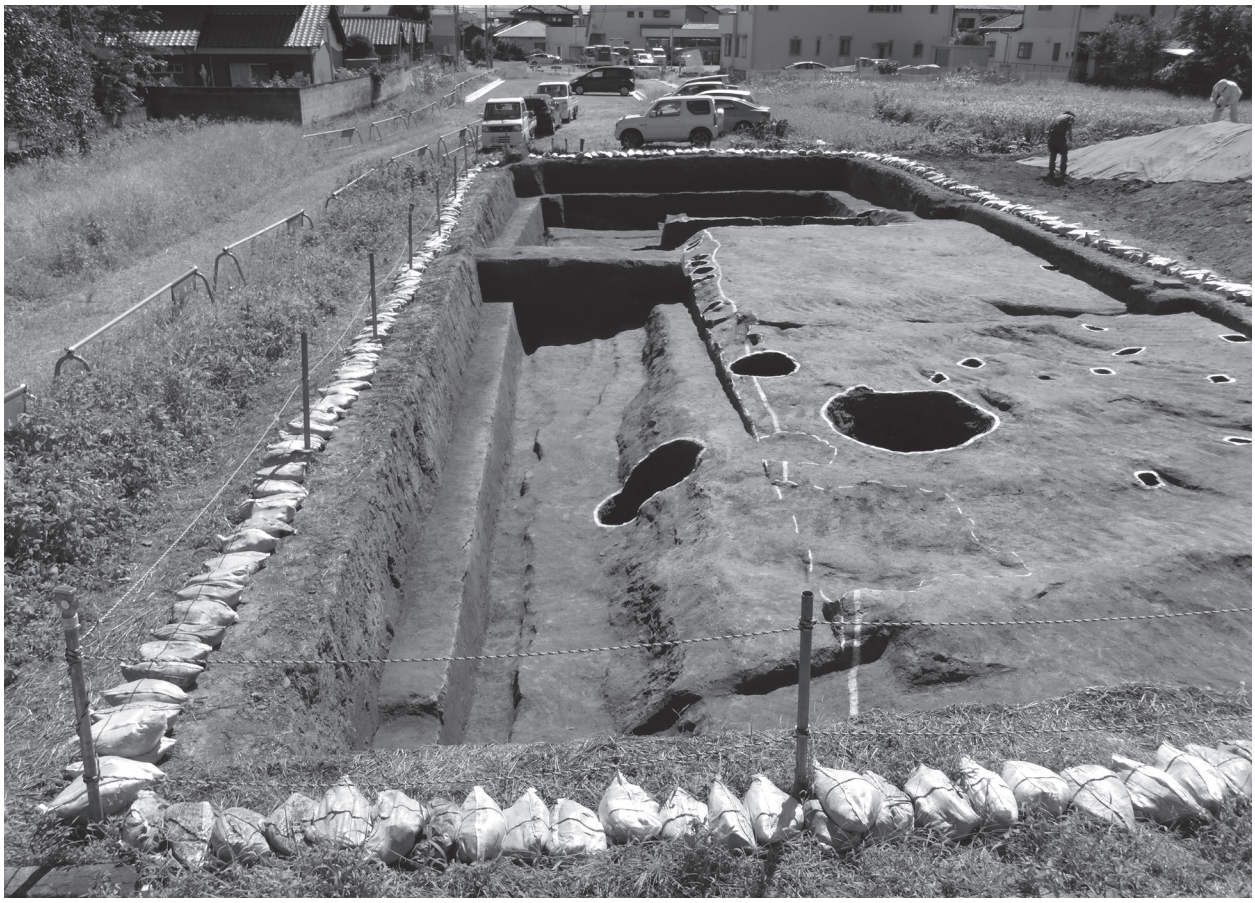
調査区遠景（南から、右上が蒼海城本丸）



調査区全景（上が北）

調査区全景（南から）

W－１号溝跡全景（南から）



W－１号溝跡近景（北から）

W－２・３号溝跡全景（東から）

W－２号溝跡全景（東から）

W－３号溝跡全景（東から）

Ⅰ－１号井戸跡全景（東から）

Ⅰ－２号井戸跡全景（北から）

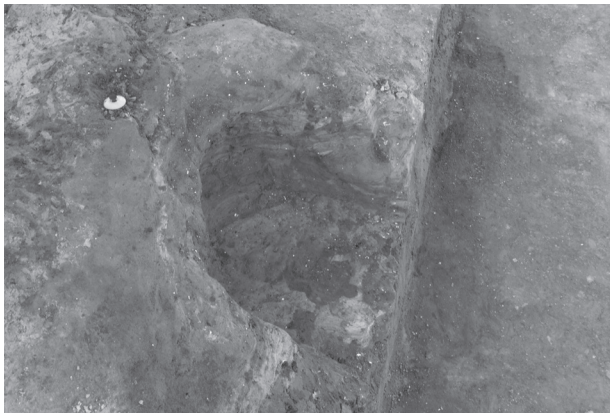
Ⅰ－３号井戸跡全景（南から）

Ⅰ－４号井戸跡全景（南から）

Ⅰ－５号井戸跡全景（東から）

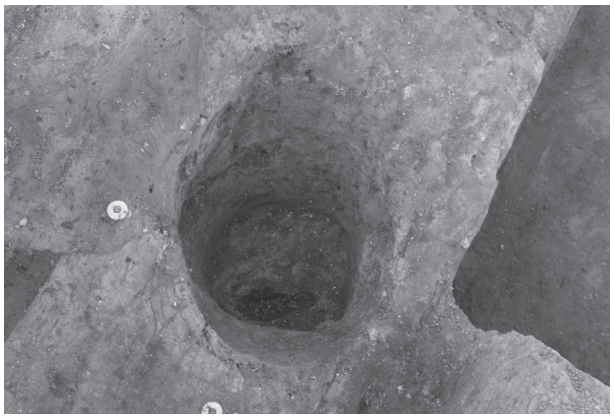
Ⅰ－６号井戸跡全景（北から）

Ｐ－１～10号ピット全景（南から）



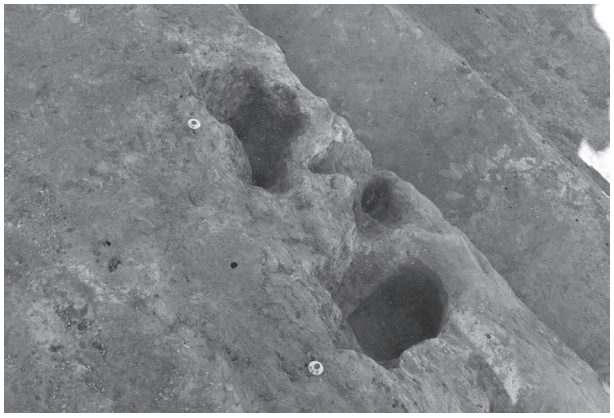
Ｐ－１号ピット全景（南から）

Ｐ－２・３号ピット全景（南から）

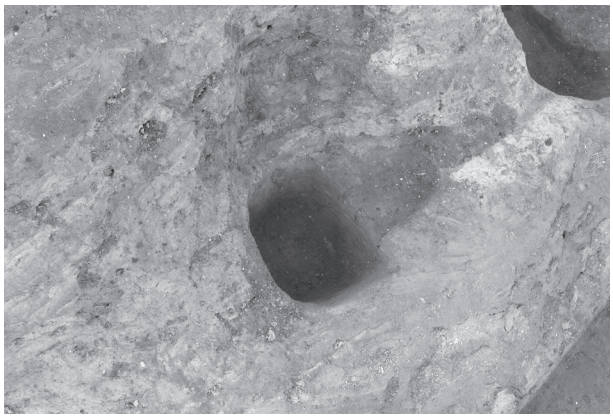


Ｐ－４号ピット全景（南から）

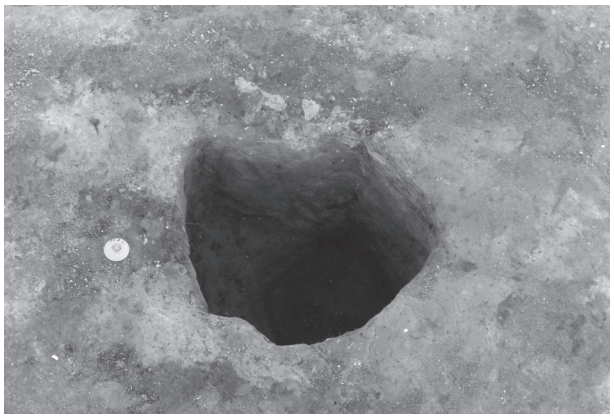
Ｐ－５・６・７号ピット全景（東から）



Ｐ－８・９号ピット全景（南から）



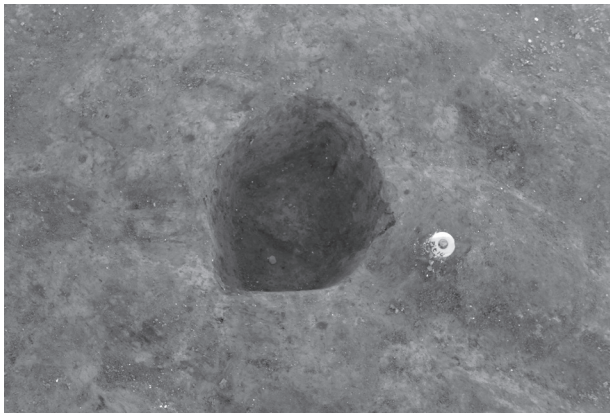
Ｐ－10号ピット全景（東から）



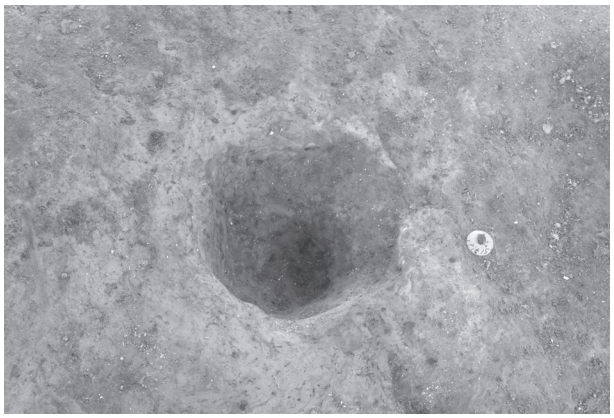
Ｐ－11号ピット全景（南から）

Ｐ－12号ピット全景（南から）

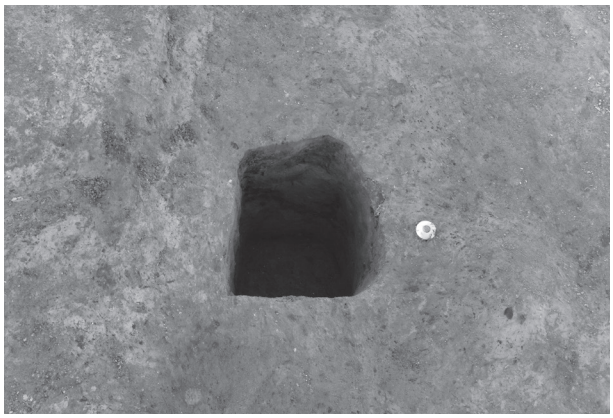
Ｐ－13号ピット全景（南から）



Ｐ－14号ピット全景（南から）

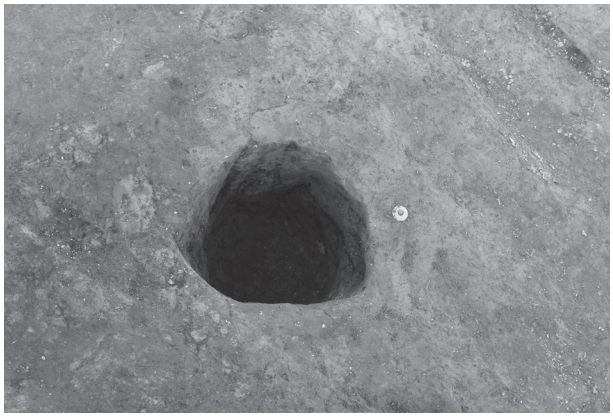


Ｐ－15号ピット全景（南から）

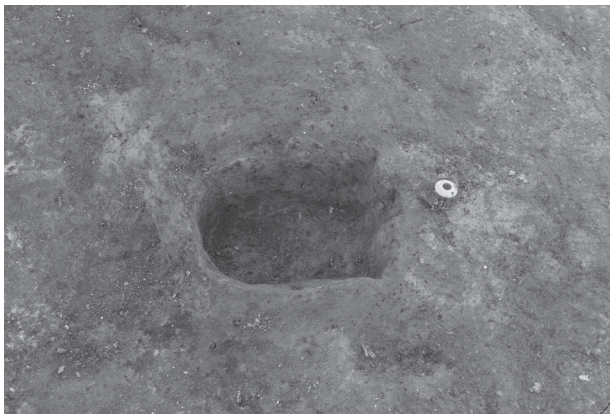


Ｐ－16号ピット全景（南から）

Ｐ－17号ピット全景（南から）



Ｐ－18号ピット全景（南から）

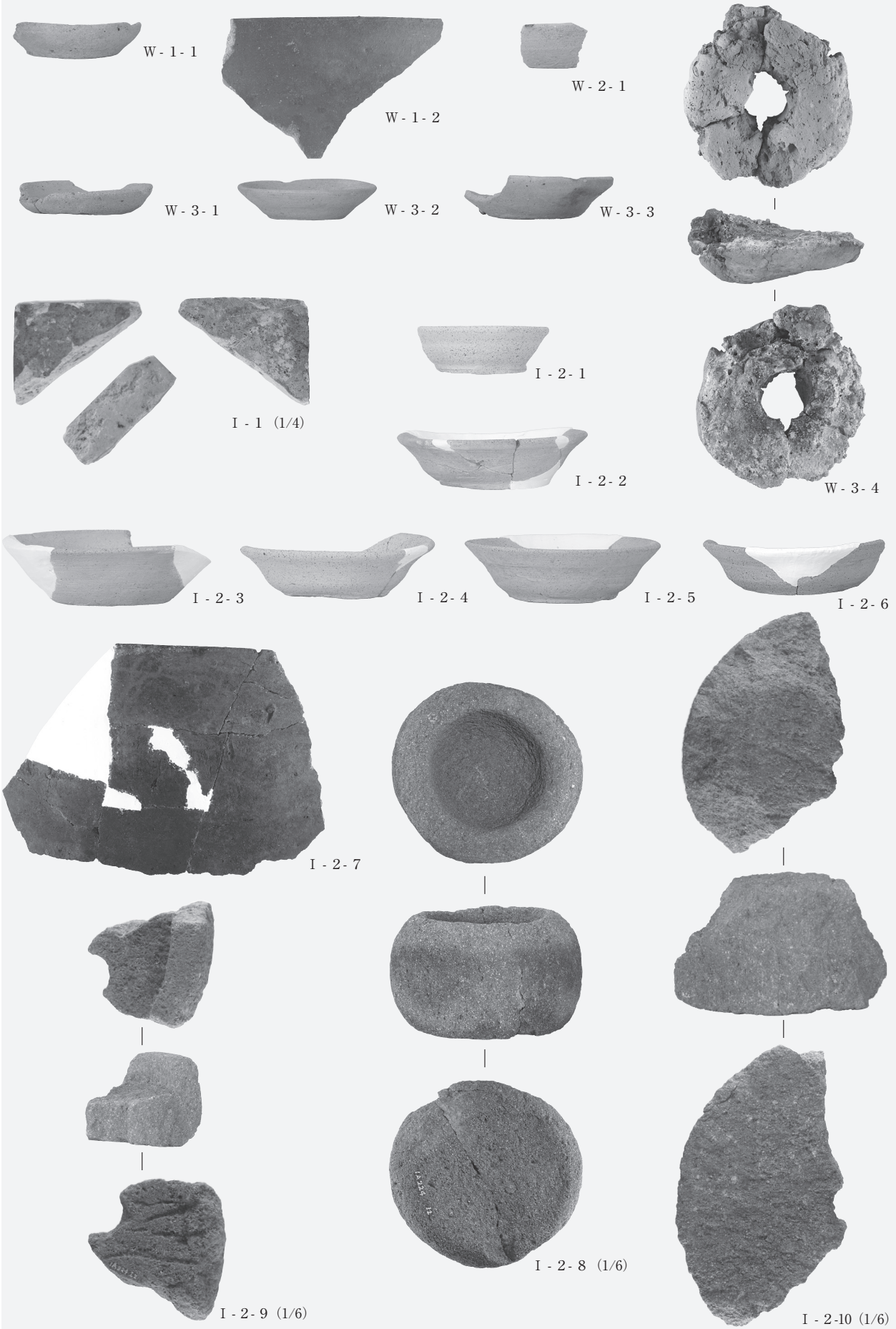


Ｐ－19号ピット全景（南から）

Ｐ－20号ピット全景（南から）

Ｐ－21号ピット全景（南から）

基本層序（南から）


W - 1 - 1
W - 1 - 2
W - 2 - 1
W - 3 - 1
W - 3 - 2
W - 3 - 3
I - 1 (1/4)
I - 2 - 1
I - 2 - 2
W - 3 - 4
I - 2 - 3
I - 2 - 4
I - 2 - 5
I - 2 - 6
I - 2 - 7
I - 2 - 8 (1/6)
I - 2 - 9 (1/6)
I - 2 -10 (1/6)

Ⅰ-3-1（1/1）

Ⅰ-4-2

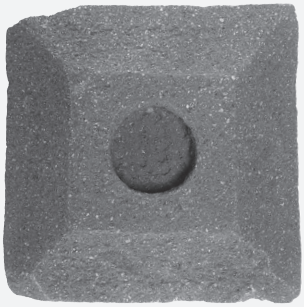
Ⅰ-2-11（1/6）

Ⅰ-4-1

Ⅰ-4-4（1/6）

Ⅰ-4-3（1/6）

Ⅰ-4-5（1/6）



Ⅰ-4-6（1/6）

遺構外-1（1/1）

報告書抄録

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン（135）
書名	元総社蒼海遺跡群（135）
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	－
シリーズ名	－
シリーズ番号	－
編著者名	山田誠司
編集機関	技研コンサル株式会社
編集機関所在地	〒371－0031　群馬県前橋市下小出町1丁目15番地３
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371－0853　群馬県前橋市総社町３丁目11番地４
発行年月日	2020年３月10日

フリガナ	フリガナ	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群 （135）	マエバシシモトソウジャマチ 前橋市元総社町 2149-1、2149-2、 2149-5、2149-7	102021	１Ａ244	36°23'20	139°2'00	20190905 ～ 20190924	304㎡	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群 （135）	城館跡	中・近世	溝跡　３条 井戸跡　６基 ピット　21基	かわらけ 陶磁器 石製品 古銭	・蒼海城に関連する堀

元総社蒼海遺跡群（135）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2020年３月１日　印刷
2020年３月10日　発行

発行　前橋市教育委員会文化財保護課
〒371－0853　群馬県前橋市総社町３丁目11番地４
TEL　027-280-6511

編集　技研コンサル株式会社
印刷　朝日印刷工業株式会社